ポストコロナ時代の
医療人材養成拠点形成事業
報告書

長崎大学　熊本大学　鹿児島大学

目　次

Contents

1. 医学部長あいさつ

- 長崎大学医学部長 …… 2
- 熊本大学医学部長 …… 3
- 鹿児島大学医学部長 …… 4

2. メンバー紹介

拠点部長紹介

- 長崎大学 …… 5
- 熊本大学 …… 6
- 鹿児島大学 …… 7

教員紹介

- 長崎大学 …… 8
- 熊本大学 …… 8
- 鹿児島大学 …… 10

事務員紹介

- 長崎大学 …… 11
- 熊本大学 …… 11
- 鹿児島大学 …… 11

3. 委員会組織図 …… 12

4. 事業概要 …… 16

5. 事業内容 …… 36

6. 今年度の進捗 …… 50

7. その他 …… 52

1 医学部長あいさつ

ご　挨　拶

長崎大学医学部長
池松　和哉

本事業では、長崎、熊本、鹿児島の各大学が各々の強みを活かした教育を行います。全国的に地域枠定員が増えてくる中、それぞれの地域ごとに更なる課題が浮き彫りになりつつあります。そのような中、一つの大学のみでなく、他大学も含めた教員、学生が学ぶことができる機会は大変有用です。長崎大学は熱帯医学研究所を始め感染症学を専門とする多くの教室を有し、この分野では国内外をリードしています。また、離島と本土の地域包括医療・ケアフィールドを活用した総合診療・家庭医療人材育成モデルを構築しています。熊本大学では熊本地震や豪雨災害の経験を経て、災害医療教育に傾注し、災害医療教育研究センターを中心に充実した卒前教育を展開している災害医療や救急医療という特徴があり、鹿児島大学では総合診療・家庭医療を基軸にした包括的な地域医療・ケア教育を離島で展開しています。これらの特徴を踏まえて、多彩なオンデマンド教材と VR コンテンツを開発し、ICT 基盤の Learning Management System を拡充させカリキュラムに活用し学びの能率向上を図り、大学を超えた学習環境を作ります。この環境作りにて多様な地域で柔軟性を持ってリーダーシップを発揮できる能力の養成と地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、解決に向けた行動に主体性を持って取り組む医療人材を育成します。

同時に、3 大学で連携し地域医療ゼミナール等で高大連携を進めます。地域医療を理解し志す学生の増加させ、集中的な教育を実施し、この事業のプログラム・コースを修了した医師を多数輩出し、地域医療に貢献する体制を創り上げます。

末筆になりますが、この事業は三大学だけで行えるものではありません。各地域での医療機関や自治体、関連する職能団体に多大なるお力添えを賜ることになります。関係者各位の皆様におかれましては、是非ともご協力の程宜しくお願い致します。

ご　挨　拶

熊本大学医学部長
山縣　和也

「次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト～地域とくらしを支える医療人の育成～」の初年度事業の完了にあたり、ご挨拶申し上げます。

本事業において、本学では、令和４年９月１日に「熊本大学医学部連携教育センター」を設置し、代表校である長崎大学様のリーダーシップのもと事業遂行に努め、順調に計画が進捗しているところです。

本学では、本事業において災害医療及び救急医療の２つの強みを掲げております。災害医療については、熊本地震や豪雨災害を経験した大学として、これらの体験を活かした医学教育を提供することを使命と考え、災害医療教育に継続的に力を入れてまいりました。また救急医療については、熊本市内の３つの救命救急センターと熊本大学病院が連携する一体的な高度救急医療を展開しており、本学大学病院とこれらの救命救急センターをローテーションしながら救急医療教育を行うことで、地域に求められる医療対応や効率的・効果的な救急医療の修得に向けた教育の充実が期待できます。

本学医学科といたしましては、三大学の連携教育の中で、これらの強みを活かしながら地域で求められる医療人材の育成に貢献して参る所存であります。

さらに地域医療交流実習によって、学生達が地域に暮らす人々の生活を体感し、他大学の学生と交流できる機会を提供できることとなりました。この経験が、地域医療の重要性や医師としての使命を再認識させ、多様な地域に適応出来る柔軟性を養ってくれるものと考えております。

本事業での取組によって、三大学の強みを持ち寄った多様な教育コンテンツの開発・共有、多様な教育手法による医学教育の効率化・高度化が実現可能となります。このような医学教育の充実の機会をいただきましたこと、また、地域の医療機関の皆様、地域医療に関わる行政関係の皆様、その他ご協力いただいております全ての方々に感謝申し上げ、必ずや地域とくらしを支える、優れた医療人を育成することを誓いまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

1 医学部長あいさつ

鹿児島大学の地域医療実習を核とした地域医療教育を広く提供する

鹿児島大学医学部長
橋口　照人

南北600kmに及ぶ県土を抱える鹿児島県には、全国1位の離島面積と離島人口約16万人（県民の10%は離島在住）を有する島々が存在します。航空機で移動ができない離島も多く、医療の提供には大きな問題が存在します。有人離島は28島あり、6万人以上の人が住む奄美大島から、わずか数名の住民が住む新島や桂島まで様々です。こうした地域では、プライマリ・ケア、全人的医療の提供が求められ、診断・検査・治療が一体となって進められる必要があり、これを学ぶには最高の教育フィールドとも言えます。この点に注目し、離島実習を平成13年から開始しました。平成19年には、モデルコア・カリキュラムに、地域医療が項目として追加された事を受け、鹿児島大学では全国に先駆けて「離島へき地医療実習」を必修科目として開始しています。

実習内容として、現在は以下を主に行っています。

- 主に地方の診療所を中心とした医療機関に長期滞在型臨床実習（薬局、老健施設、デイケア施設、グループホームなどを含む）
- 在宅医療専門医療機関での臨床実習
- 保健センターによる住民向け健康教室における健康講話
- NPO法人がんサポート鹿児島でのがん患者との対話
- 実症例を用いた地域包括ケア考察

今回採択された「大学教育再生戦略推進費－ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」では、この実習を連携大学にも提供することが出来ます。地域での医療のビデオも作成し、今後広く全国の医育大学の教育の参考となるものと考えているところです。

本事業に於いては、3大学が各々の得意とする領域を提供し合い、質の高い学士の排出を可能とするものですが、現時点で想定されている内容を、今後は更に拡げて、更に質の高い医学教育の提供を目指していきたいと考えています。皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

2 メンバー紹介

拠点部長紹介

ご　挨　拶

長崎大学医学部
医療人材連携教育センター　センター長

永田　康浩

本事業におきまして長崎大学における事業推進とともに、拠点本部長として３大学の取りまとめを担当します。

コロナ禍や度重なる災害を経験した我々は、ポストコロナ時代においてこれまでの医学教育の枠組みでは立ち行かないことにも気づかされました。本事業ではポストコロナ時代の医療人育成へ向けて、いかなる状況においても継続可能な教育体制の構築を目指します。

これらを克服するための次世代型教育のひとつとして、最先端のバーチャルリアリティ技術を医学教育に導入します。コンテンツ作成のみならず教育の手法と効果についても新たな視点が求められるでしょう。また、コロナ禍でニーズが高まったデジタル・オンデマンド教材については、円滑に運営するための学習プラットフォームとしてLMS（Learning Measuring System）の大学間での相互乗り入れにも挑みます。そして３大学連携教育の象徴でもある交流実習では、大学の枠を超えて実習フィールドの機会を拡充します。学生のみなさんには、さまざまな地域の風土をリアルに感じて、「くらし」のなかの多様なニーズに応える能力を養ってもらいたいと思います。すなわち、我々が目指すものは「バーチャル」と地域とくらしの「リアリティー」をつなぐ教育です。

全国の大学医学部のみならず各自治体とも成果を共有させながら推進して参りますので、関係するみなさまにおかれましても、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

ご　挨　拶

熊本大学医学部連携教育センター長

尾池　雄一

熊本大学医学部連携教育センター長を務めております尾池雄一（熊本大学医学部医学科長）です。本事業では、長崎大学･鹿児島大学･熊本大学の３大学の連携により、地域で求められる医療人育成に向け、効率よくリアリティの高い学修が可能となる教育環境の整備を目指します。特に、熊本大学は近年の熊本地震、人吉・球磨地区の豪雨・河川氾濫災害で学び経験した災害医療、救急医療領域で貢献していく所存です。本年度既に、災害医療、救急医療に関するオンデマンド教材と VR コンテンツの開発を進めており、次年度には３大学連携教育カリキュラムに提供できる予定であり、３大学の教育現場において実際に活用して頂けることを楽しみにしております。また地域医療実習では、既に学生の各々の実習先への相互乗り入れにより３大学間交流が始まっており、順調にスタート出来たことに安堵しております。これまでの熊本大学のカリキュラムでは経験できなかった離島・僻地医療を、熊本大学の学生が本格的に学修できる機会が得られたことは大変意義深いものと感謝しております。本事業は本年度始まったばかりですが、地域で求められる医療人の育成と持続可能な大学間連携教育システムの創設を目指し尽力していく所存ですので、引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

医療人連携教育センター事業開始に向けて

鹿児島大学　医療人連携教育センター　センター長
地域医療学分野／離島へき地医療人育成センター　教授

大脇　哲洋

3大学の連携の中で、鹿児島大学は「離島・へき地医療教育拠点」及び「家庭医療・地域包括ケア教育拠点」を担当します。本土から離れた離島やへき地の診断・検査・治療が一体となって行われる地域医療を体験できる優れた教育フィールドと、それを利用したコンテンツを提供します。地域で完結できる診療の工夫を、ロールモデル医療人から広く学んでいただきたいと考えます。平成13年から築き挙げてきた、この離島・へき地での総合診療教育の経験を、まずは3大学間で、更には全国に参考となる形で提供できれば幸いです。

また、長崎大学の感染症、熊本大学の災害医療の各々の得意とする領域を、経験した専門家から学べる機会を得、学生・教員にとって、質の高い研鑽が出来ることを大変楽しみにしています。

教員紹介

長崎大学

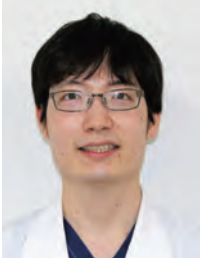
准教授　**川 尻　真 也**

所属：長崎大学生命医科学域　医療人材連携教育センター
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　地域医療学分野

助教　**二 里　哲 朗**

所属：長崎大学生命医科学域　医療人材連携教育センター
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　地域医療学分野

熊本大学

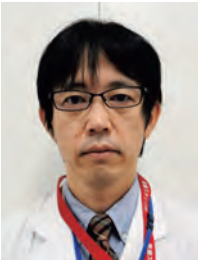


特定事業教員　**山 村　遼 介**

所属：熊本大学医学部連携教育センター

助教　**永 芳　友**

所属：熊本大学大学院生命科学研究部総合医学教育学講座



副センター長　**古川　昇**

所属：熊本大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター

副センター長　**松井　啓隆**

所属：熊本大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター

副センター長　**大場　隆**

所属：熊本大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター

教授／センター長　**松井　邦彦**

所属：熊本大学病院総合診療科／地域医療支援センター

センター長　**笠岡　俊志**

所属：熊本大学病院災害医療教育研究センター

熊本大学

部長　**入 江　弘 基**

所属：熊本大学病院救急部

鹿児島大学

特任研究員　**﨑 山　隼 人**

所属：鹿児島大学医療人材連携教育センター

准教授　**網 谷　真 理 恵**

所属：鹿児島大学地域医療学分野

助教　**指 宿　り え**

所属：鹿児島大学地域医療学分野

事務員紹介

長崎大学

生命医科学域・研究所事務部　総務課（総務）　主査　森田哲郎
生命医科学域・研究所事務部　総務課（企画）　主査　永野和浩
生命医科学域・研究所事務部　学術・管理課（管理）　主査　浜崎大輔
生命医科学域・研究所事務部　学務課（医学科）　主査　岩丸祐太郎
生命医科学域・研究所事務部　学術・管理課　課員　楠本睦
生命医科学域・研究所事務部　学務課（医学科）　課員　井上まゆ子
医療人材連携教育センター　事務補佐員　岡田薫

熊本大学

医薬保健学系事務課　課長　田代久美子
医薬保健学系事務課　副課長　上原貴子
医薬保健学系事務課　係長　荒田良則
医薬保健学系事務課　係長　前田祥達
医学部連携教育センター　事務補佐員　里本結

鹿児島大学

医歯学総合研究科等総務課　課長　平野謙一郎
医歯学総合研究科等学務課　課長　大中浩己
医歯学総合研究科等総務課　課長代理　吉満伸二
医歯学総合研究科等総務課　財務係長　坂野雄一
医療人材連携教育センター　事務補佐員　新窪繭子
医療人材連携教育センター　事務補佐員　豊増和香

3 委員会組織図

外部評価委員会
- 学外有識者
- 県医療福祉分野部長等
- その他

事業評価・管理委員会
- 学長・教学担当理事
- 医学部長・教務委員長
- 学外医療機関の長
- その他

連携教育合同委員会（コア会議）
- 連携教育センター教員
- 本事業に関わるコアメンバー（教務関係）
- LMS担当者（ICT基盤センター等）
- その他

長崎大学

連携教育センター
- 兼務教員（教授）
- 新規雇用教員（有期2名）

事業推進委員会
- 連携教育センター教員
- 関連部門の教員
  （総合診療部門・救急部門・感染症部門など）
- LMS担当者
  （ICT基盤センター等）
- 学外医療機関の関係者
- 県の関係者
  （地域医療支援センターなど）
- その他

熊本大学

連携教育センター
- 兼務教員（教授）
- 新規雇用教員（有期1名）

事業推進委員会
- 連携教育センター教員
- 関連部門の教員
  （総合診療部門・救急部門・災害医療部門・医学教育部門など）
- 県の関係者
- その他

鹿児島大学

連携教育センター
- 兼務教員（教授）
- 新規雇用教員（有期1名）

事業推進委員会
- 連携教育センター教員
- 関連部門の教員
  （総合診療部門・救急部門・感染症部門など）
- LMS担当者
  （ICT基盤センター等）
- 学外医療機関の関係者
- 県の関係者
  （地域医療支援センターなど）
- その他

事業運営体制

長崎大学・熊本大学・鹿児島大学の各大学に設置した連携教育センターが主体となり実務を担当し事業を運営する。各大学には、具体的事業計画の円滑な推進と運営を図るために、連携教育センターの教員と本事業に関連する学内外の関係者を構成メンバーとする事業推進委員会を設けて事業を推進する。さらに、LMS（Learning Management System）担当者と各大学の事業に関わる中心的なメンバーを加えた 3 大学の連携教育合同委員会（コア会議）において、大学間連携教育の運営、課題、取組等について定期的に協議する場を設けている。

事業評価・管理体制

事業評価・管理委員会は本事業の活動全般を管理することを目的とし、本事業で関連するステークホルダーを構成メンバーとする上級委員会である。進捗状況や成果等について報告を受けた上で事業評価を行い、事業の方向性を管理する。さらに、外部有識者として自治体や医師会長等からなる外部評価委員会により、第三者の立場から本事業を評価いただき、幅広い観点から事業発展に向けた意見や助言を受け、事業活動に反映させていく体制としている。

3 大学委員会等名簿

医療人材連携教育センター	氏名	所属	役職
長崎大学			
センター長	永田　康浩	医療人材連携教育センター、地域医療学	教授
副センター長	川尻　真也	医療人材連携教育センター、地域医療学	准教授
専任教員	二里　哲朗	医療人材連携教育センター、地域医療学	助教
熊本大学			
センター長	尾池　雄一	分子遺伝学	教授
特定事業教員	山村　遼介	医学部連携教育センター	特定事業教員
鹿児島大学			
センター長	大脇　哲洋	地域医療学分野	教授
担当教員	﨑山　隼人	医療人材連携教育センター	特任研究員

事業推進委員会	氏名	所属	役職
長崎大学			
センター長・委員長	永田　康浩	医療人材連携教育センター、地域医療学	教授
副センター長	川尻　真也	医療人材連携教育センター、地域医療学	准教授
	野中　文陽	離島・へき地医療学講座	助教
	前田　隆浩	総合診療学	教授
	古本　朗嗣	病院 感染症医療人育成センター	教授
	髙山　隼人	病院 地域医療支援センター	特定教授
	古賀　掲維	ICT 基盤センター	准教授
	二里　哲朗	医療人材連携教育センター、地域医療学	助教
熊本大学			
センター長・委員長	尾池　雄一	分子遺伝学	教授
センターに所属する特定事業教員	山村　遼介	医学部連携教育センター	特定事業教員
	古川　昇	臨床医学教育研究センター	准教授
	松井　啓隆	臨床病態解析学	教授
	大場　隆	産婦人科学	准教授
	松井　邦彦	総合診療科 / 地域医療支援センター	教授
	笠岡　俊志	災害医療教育研究センター	教授
	入江　弘基	救急部	教授
	永芳　友	総合医学教育学講座	助教
鹿児島大学			
センター長・委員長	大脇　哲洋	地域医療学分野	教授
担当教員	﨑山　隼人	医療人材連携教育センター	特任研究員
	嶽﨑　俊郎	病院 地域医療支援センター（センター長）	特任教授
	横尾　英孝	医歯学教育開発センター	教授
	網谷　真理恵	地域医療学分野	准教授
	指宿　りえ	地域医療学分野	助教

連携教育合同委員会	氏名	所属	役職
拠点本部長	永田　康浩	長崎大学（医療人材連携教育センター、地域医療学）	教授
拠点副本部長	前田　隆浩	長崎大学（総合診療学）	教授
拠点副本部長	尾池　雄一	熊本大学（分子遺伝学）	教授
拠点副本部長	大脇　哲洋	鹿児島大学（地域医療学分野）	教授
	川尻　真也	長崎大学（医療人材連携教育センター、地域医療学）	准教授
	二里　哲朗	長崎大学（医療人材連携教育センター、地域医療学）	助教
	山村　遼介	熊本大学（医学部連携教育センター）	特定事業教員
	﨑山　隼人	鹿児島大学（医療人材連携教育センター）	特任研究員
	古賀　掲維	長崎大学（ICT 基盤センター）	准教授
	永芳　友	熊本大学（総合医学教育学講座）	助教

事業評価・管理委員会	氏名	所属	役職
拠点本部のある医学部長	池松　和哉	長崎大学（医学部長）	教授
拠点本部長	永田　康浩	長崎大学（医療人材連携教育センター、地域医療学）	教授
拠点副本部長	前田　隆浩	長崎大学（総合診療学）	教授
拠点副本部長	尾池　雄一	熊本大学（分子遺伝学）	教授
拠点副本部長	大脇　哲洋	鹿児島大学（地域医療学分野）	教授
各教育拠点の医学科の教務関係責任者	柳原　克紀	長崎大学（臨床検査医学）	教授
各教育拠点の医学科の教務関係責任者	坂上　拓郎	熊本大学（呼吸器内科学）	教授
各教育拠点の医学科の教務関係責任者	下堂薗　恵	鹿児島大学（リハビリテーション医学分野）	教授
委員長が指名する学外医療機関長	竹島　史直	長崎県五島中央病院	院長
その他委員長が必要と認めた者	松島　加代子	長崎大学（病院 医療教育開発センター）	教授
その他委員長が必要と認めた者	髙山　隼人	長崎大学（病院 地域医療支援センター）	特定教授

外部評価委員会	氏名	所属	役職
	森崎　正幸	長崎県医師会	会長
	米倉　正大	長崎県病院企業団	企業長
	安東　由喜雄	長崎国際大学	学長
	寺原　朋裕	長崎県福祉保健部	部長

担当事務（所属）	氏名	所属	役職
長崎大学			
生命医科学域・研究所事務部 総務課（総務）	森田　哲郎		主査
生命医科学域・研究所事務部 総務課（企画）	永野　和浩		主査
生命医科学域・研究所事務部 学術・管理課（管理）	浜崎　大介		主査
生命医科学域・研究所事務部 学務課（医学科）	岩丸　祐太郎		主査
生命医科学域・研究所事務部 学術・管理課（管理）	楠本　睦	連絡担当	課員
生命医科学域・研究所事務部 学務課（医学科）	井上　まゆ子		課員
医療人材連携教育センター	岡田　薫		事務補佐員
熊本大学			
医薬保健学系事務課	田代　久美子		課長
医薬保健学系事務課	上原　貴子	連絡担当	副課長
医薬保健学系事務課（教務担当用メール）	荒田　良則	連絡担当	係長
医薬保健学系事務課（経理担当用メール）	前田　祥達		係長
医学部連携教育センター	里本　結		事務補佐員
鹿児島大学			
医歯学総合研究科等総務課	平野　謙一郎	連絡担当	課長
医歯学総合研究科等学務課	大中　浩己	連絡担当	課長
医歯学総合研究科等総務課	吉満　伸二		課長代理
医歯学総合研究科等総務課	坂野　雄一		財務係長
医療人材連携教育センター	新窪　繭子		事務補佐員
医療人材連携教育センター	豊増　和香		事務補佐員

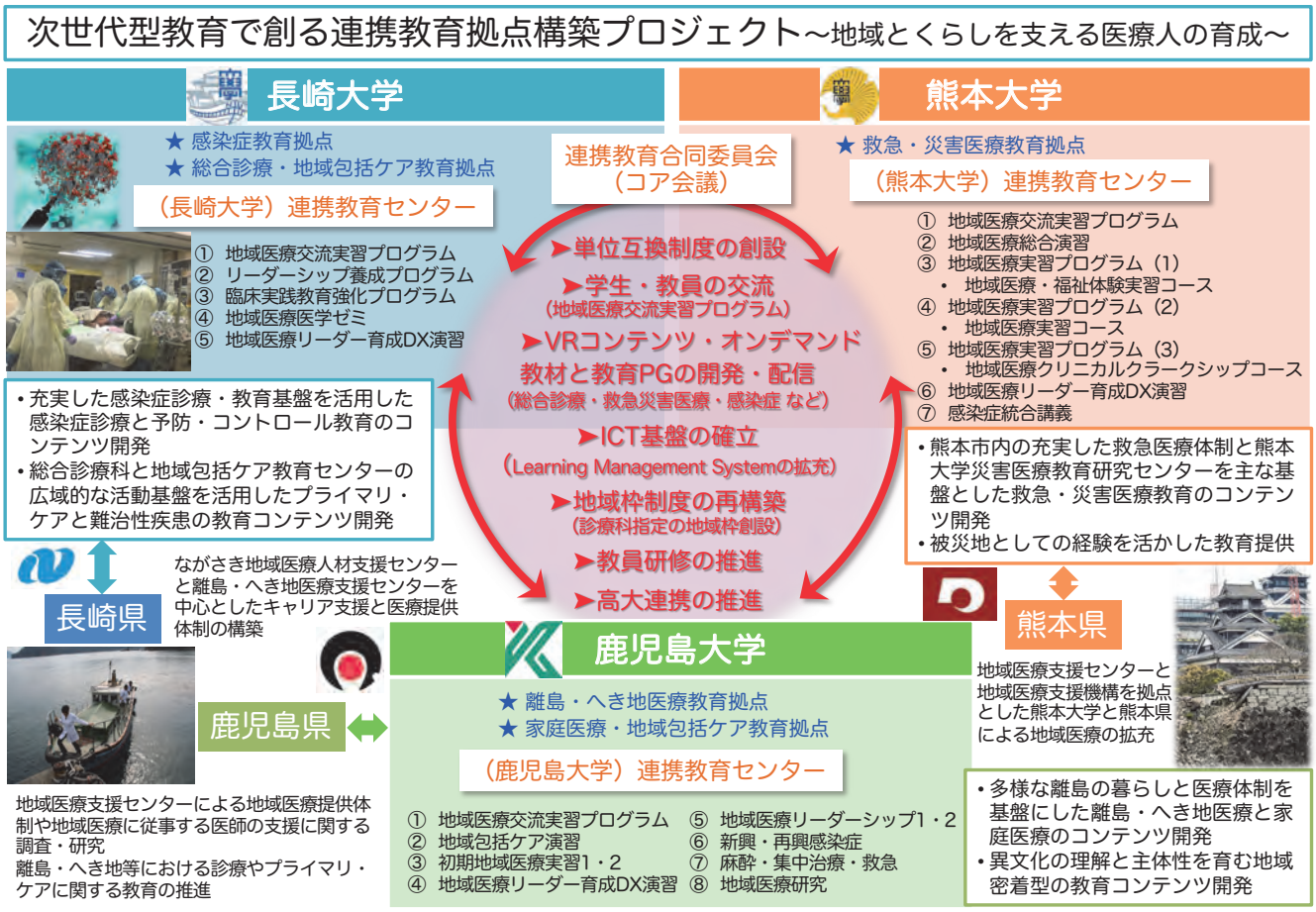
4 事業概要

1．長崎大学・熊本大学・鹿児島大学が強味を持ち寄り、地域で求められる医療人育成に向けた多彩なオンデマンド教材と VR コンテンツを開発し、ICT 基盤（Learning Management System）を拡充させて正規カリキュラムに活用することで学びの能率向上を図り、大学を超えて積極的に学ぶことのできる環境を作り上げる。

2．大学間交流等によって学生と教員の知見を広め、多様な地域に適応できる主体性と柔軟性を養う教育を開発する。

3．VR 教育の導入でリアリティを高めた教育を提供し、アクティブラーニングにつなげるとともに、教員に対して VR 教育のインストラクター研修を実施し、次世代型教育手法の実践モデルを提示する。

4．3 大学に実務基盤として連携教育センターを設置した上で、連携基盤として中心的教員による連携教育合同委員会を組織し、地域で求められる医療人の育成と持続可能な大学間連携教育システムの創設を目指す。



地域医療交流実習プログラム

長崎大学　熊本大学　鹿児島大学

取組む分野　総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療、離島・へき地医療

対　象　者　医学部生（主に地域枠学生＋地域医療に興味のある学生）

対 象 年 次　5 年次～ 6 年次

養成すべき人材像

地域の特性や社会資源などの背景を理解した上で、保健・医療・福祉等の多分野と連携した包括的な地域医療・ケアが実践できる人材
地域ヘルスケアシステムに関わる多職種と協働し、良好なコミュニケーションがとれる人材
地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、チームとして解決に向けた思考ができる人材
広い視野を持ち、多様な地域においてニーズに応じた医療活動を実践することができる人材

科目等詳細

＜実習型科目＞
・地域医療実習（一部の地域枠学生必修、1 単位、5・6 年次）
主に地域枠学生を対象として、多様な地域においてニーズに応じた患者中心の医療を実践できる素養を身に付けさせるため、連携大学の地域医療教育フィールドにおいて 1 週間の交流実習を行う。
各連携大学は、それぞれの地域医療実習フィールドにおいて他大学の学生を受入れ、持ち味を活かした地域医療実習を提供する。
学生は、交流実習に先だって連携大学が作成したオンデマンドコンテンツを視聴することによって理解を深め、効果的な実習につなげる。
本プログラムを臨床実習の一部と位置づけ、連携 3 大学間で地域医療実習の内容やコンセプトを確認した上で単位互換制度を創設し、受け入れ大学が交流する学生の指導・評価を担当する。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

各連携大学が地域特性を活かして整備している地域医療実習フィールドを活用し、各連携大学の医学生が相互乗り入れによる地域医療実習を体験することで、多様な地域における医療の在り方を学び、知見を広げるとともに主体性と柔軟性を養う。各大学の担当教員や地域医療機関等と連絡を取り合いながら、各地域に関する事前学習を行い、受入と指導の体制を整備することで実習環境と安全性を充実させる。単位互換制度を創設した上で、各大学の臨床実習の正課として位置づける新規の教育プログラムである。
各大学の教員も相互乗り入れで指導にあたることで、教員の指導力向上にも貢献することが期待される。

指 導 体 制　長崎大学・熊本大学・鹿児島大学の担当教員
地域医療機関の臨床教授等

開 始 時 期　令和 5 年 1 月

養成目標人数（総数）　138 名

リーダーシップ養成プログラム

長崎大学

取組む分野　社会医学、総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療

対　象　者　医学部生（主に地域枠学生＋地域医療に興味のある学生）

対 象 年 次　3 年次・4 年次

養成すべき人材像

地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、チームとして解決に向けた思考ができる主体的・協働的な人材
地域課題を調査・研究テーマとして落とし込み、多方面へ配慮しながら調査・研究を実践できる人材
学んだ知識や知見を整理し、選択テーマに関連した職種（保健・医療・福祉関連の職種等）にプレゼンテーションを行う能力を持った人材

科目等詳細

＜実習型科目＞

・リサーチセミナー（地域枠学生選択必修、11.5 単位、3 年次・4 年次）

3 年次学生が少人数で研究室に配属され、研究の実践を通して科学を学ぶ選択必修科目「リサーチセミナー」に社会医学・総合診療・地域包括ケア・救急医療・災害医療など地域に求められる医療に関する研究テーマを設定し、主に地域枠学生を配属してリーダーシップ養成プログラムとして開講する。地域で求められる医療や人の健康、社会医学に関するテーマを設定し、自ら関連する資料を収集した上で、調査や現場視察等を行って現状や実態を把握するとともに、具体的な問題点等を絞り込み、解決に向けた方策を考察することで論理的思考能力を養成する。この一連の活動で達成した成果をまとめ、テーマに関連した保健・医療・福祉関連の職種等に対してプレゼンテーションを行う。

・課題発見力と課題解決力を育み、当事者意識を持ちながらリーダーシップを発揮することのできる医療人材を養成する。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

地域に求められる医療人の資質として、当事者意識を持って自ら課題を感じ取り、自主的・協働的に課題解決に向けた論理的思考を進め、実践することのできる能力があげられる。従来の教育は、知識の習得、見学・体験実習、意見交換、レポート課題など、受動的な教育手法が主体であったが、本プログラムでは、学生自身が答の定まっていない課題に向き合い、多様な職種と強調しながら解決に向けた論理的思考能力を育むアクティブラーニングを推進する。学生が自ら考え、能動的に動くことで、地域社会で求められているリーダーシップを養う。

指 導 体 制　長崎大学の担当教員
地域医療機関の臨床教授等

開 始 時 期　令和 5 年 1 月

養成目標人数（総数）　40 名

臨床実践教育強化プログラム

長崎大学

取組む分野　総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療、感染症、地域医療

対　象　者　医学部生全員

対 象 年 次　1 年次・2 年次・3 年次・4 年次

養成すべき人材像

多様なニーズや社会変化に柔軟に対応し、患者中心の医療・ケアが実践できる人材
医療・ケア・災害の現場で起こりうる状況を推測し、適切な対応等について思考と実践ができる人材
医療・ケアの現場や災害現場の隅々にまで目を配ることができ、適切な対応等について思考と実践ができる人材
患者や利用者の診療・対応にあたって、自ら所見や課題に気付き適切に対応できる能力を持った人材
VR 教材等の新たな教育手法を駆使し、医学教育の発展に貢献することのできる教育人材

科目等詳細

＜演習型科目＞

多様なニーズや社会変化に対応できる医療人材の育成と人間的成長を促すことを目的に、医療や医学にかかわる多彩な内容をテーマとして、1 年次から 4 年次にかけて講義・演習・実習で構成された科目「医と社会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を配置している。この「医と社会」の内容にオンデマンド教育と VR コンテンツを導入することで計画的・発展的に改変・拡充し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人の育成に向けた教育プログラムとして再編強化する。

・医と社会Ⅰ（必修、2 単位の一部、1 年次）

医療面接や身体診察、コミュニケーションスキル、チーム医療、リハビリテーション等の初歩について講義・演習と実習を組み合わせて学ぶ「医と社会Ⅰ」については、地域医療、総合診療、地域包括ケア、救急・災害医療等の視点から初年次に学ぶべき内容を再構築し、オンデマンド教材と VR コンテンツを活用した教育手法を導入することで充実化・効率化を図る。VR コンテンツを活用した教育では、仮想空間の中でリアルなシミュレーション教育を繰り返す教育プログラムを構築し、特に手洗い、防護服の着脱、ゾーニング等の感染防御教育については、入学後早期に実施して感染防護スキルを身につけさせる。また、オンデマンド教育を効果的なリハビリ施設実習へとつなげる導入教育として位置づける。

・医と社会Ⅱ（必修、2 単位の一部、2 年次）

高齢者施設での体験実習と組み合わせて介護やリハビリテーション等を学ぶ「医と社会Ⅱ」にオンデマンド教材と VR コンテンツを活用した教育手法を導入し、高齢者施設や介護、リハビリテーション等についての理解を深めるとともに、効果的な高齢者施設の体験実習へとつなげる導入教育として位置づける。特に VR コンテンツを活用した教育については、仮想空間の中でリアルな高齢者医療・ケアのシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、高齢者への適切な対応等について修得させる。

・医と社会Ⅲ（必修、2 単位の一部、3 年次）

診療所実習と組み合わせて患者の診察法やチーム医療等について学ぶ「医と社会Ⅲ」にオンデマンド教材と VR コンテンツを活用した教育手法を導入し、診療所での診療や初期救急、コミュニケーション等について理解を深めるとともに、効果的な診療所実習へとつなげる導入教育として位置づける。特に VR コンテンツを活用した教育については、仮想診察室のなかでリアルな診療や初期救急等についてシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、総合診療の実践法や地域で求められている診療所業務について修得させる。

・医と社会Ⅳ（必修、1 単位の一部、4 年次）

臨床実習直前のタイミングで、医療現場で日常的に遭遇する医療安全や家族対応等の臨床課題、ターミナルケア、

地域包括ケアシステム、災害医療等について講義形式で学ぶ「医と社会Ⅳ」にオンデマンド教材と VR コンテンツを活用した教育手法を導入し、実践的な臨床業務の理解を深めるとともに、診療参加型の臨床実習へとつなげる導入教育として位置づける。特に VR コンテンツを活用した教育では、多様な医療空間でのシミュレーション教育を繰り返し、医療対応だけでなく多様なコミュニケーションとマネジメント能力、危機管理能力の養成を図る。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

「医と社会」は、医学や医療に関する幅広い内容を含んだオムニバス形式の科目で、社会の変化や学生の学びのレベルに応じて柔軟に編成し、学びのプロセスと授業科目全体を関連づけて裏打ちする貴重な存在である。本事業では、連携大学とともに作成するオンデマンド教材と VR コンテンツを「医と社会」に積極的に導入することで、1 年次から 4 年次にわたる「医と社会」全体を改変・拡充して学年に応じた学習の整合と効率化を図り、学生自らが能動的に学ぶことのできる環境を整備する。また、VR コンテンツによって臨場感のある現場空間を作り上げ、繰り返しトレーニングすることができる学習環境を整備することで学生の興味を引き出しアクティブラーニングの充実を図る。あわせて教員を対象に VR 教育のインストラクター研修を定期的に実施し、VR 教育に対応できる指導者を育成する。連携 3 大学が強味を活かしてオンデマンド教材と VR コンテンツを作成し教育に活かすことで大学の教育力を強化し、あわせて VR 教育等を使った教育に習熟した教員を育成する取組は先進的・独創的であり、医学教育の発展に資するモデルの提案につながると考える。

指導体制　連携教育センター・地域包括ケア教育センター・総合診療学・地域医療学・感染症学・救急医学の教員

開始時期　令和 4 年 11 月

養成目標人数（総数）　2,910 名

地域医療医学ゼミ

長崎大学

取組む分野　地域医療、総合診療、地域包括ケア

対　象　者　医学部生（主に地域枠学生＋地域医療に興味のある学生）

対 象 年 次　2 年次・3 年次・4 年次

養成すべき人材像

地域医療に関する分野（テーマ）について深く理解し、基本的なレベルを超えた知識・スキルを身につけ実践できる人材
主体的に行動し、課題の発見から調査、分析、討論、資料作成を行いプレゼンテーションができる人材
多面的に配慮ができるマネジメント能力を身につけた人材

科目等詳細

＜演習・実習型科目＞
少人数で特定の分野を深く掘り下げる学習を行い、特定分野の深い理解を促すとともに医学・科学に対する探究心・問題解決能力の育成を目指す科目として「医学ゼミ」があり、この医学ゼミの新たな分野として「地域医療医学ゼミ」を開講する。

・地域医療医学ゼミ（必修、1 単位、2・3・4 年次）
　医学部医学科 2・3・4 年次の地域枠学生あるいは地域医療に興味のある学生から、それぞれ 3 名ずつの計 9 名を定員として新たに「地域医療医学ゼミ」を開講し、担当教員の指導のもとで自らテーマを設定し、講義･資料探索･インタビュー等によって基本レベルを超えて学びを深める教育プログラムを設置する。
　こうした学びと並行して選択テーマに関連した動画コンテンツを作成する。担当教員の指導のもと、下記の要領で自らテーマを選択して企画を制作し、動画の撮影・収集、編集を経て、作成したコンテンツを地域枠活動報告会等で発表する。さらに、3 学年にわたる学生による共同作業を進めることで、学年間の連携強化を図る。

事前作業：対象を明確にイメージして、ユーザーに伝えたいコンセプトを決める。
企画制作：絵コンテ（ストーリー、撮影カットなど）を作成し、動画コンテンツの内容を決める。
撮影対象：撮影する現場を決めて依頼や同意手続きなどの準備を行う。
撮影準備：撮影に必要な機材（カメラ、三脚、マイク、ドローンなど）を準備し、関係者とのスケジュール調整を行う。必要な場合は、出演者のキャスティングと台本や台詞を作成する。
撮　　影：絵コンテをもとに実際に動画を撮影する。
編　　集：撮影した映像、ロゴやテロップ、BGM など、必要な素材を用意し、絵コンテに基づいて動画編集ソフトを使ってシーンをつなぎ、テロップやナレーションを入れて編集する。
発　　表：毎年開催されている地域枠活動報告会で発表し、確認・修正した上でオンデマンド教育コンテンツとして保存する。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

　少人数の学生が集まり、特定の分野について深く学ぶゼミ形式のカリキュラムであるため、標準レベルを超えた学びが得られるだけでなく、学生が主体的に調査や資料探索を行うことで自主性の教育につながる。また、学生に動画コンテンツを作成させることで対象分野のより深い理解が促され、アクティブラーニングにつながる独創性の高い教育の取組であると考える。また、学生が主体となって作成した動画コンテンツをオンデマンド教育コンテンツとして活用する取組は、本事業の継続・発展にも寄与する可能性があり、新規的・独創的である。

指 導 体 制　連携教育センター・地域包括ケア教育センター・総合診療学・地域医療学・感染症学・救急医学の教員、地域医療機関の臨床教授等

開 始 時 期　令和 5 年 4 月

養成目標人数（総数）　54 名

地域包括ケア実習、離島医療・保健実習、地域病院実習

長崎大学

取組む分野　地域医療、地域保健、総合診療、地域包括ケア

対　象　者　医学部生全員

対 象 年 次　4 年次・5 年次

養成すべき人材像

地域の特性や社会資源などの背景を理解した上で、保健・医療・福祉等の多分野と連携した包括的な地域医療・ケアが実践できる人材

地域ヘルスケアシステムに関わる多職種と協働し、良好なコミュニケーションがとれる人材

地域課題・地域ニーズを自ら感じ取り、チームとして解決に向けた思考ができる人材

科目等詳細

＜実習型科目＞

多様な地域医療についての実践的な学びを深めるため、臨床実習の一環として 3 つの学外臨床実習（「地域包括ケア実習」、「離島医療・保健実習」、「地域病院実習」）を医学科生全員の必修科目として開講しており、長崎県全域の保健・医療・福祉・介護等の施設において、それぞれを 1 週間ずつローテートして業務参加型の臨床実習を行っている。この学外臨床実習の事前学習としてオンデマンド教育を作成・導入することで計画的・発展的に改変・拡充し、地域包括医療・ケアについて理解を深める教育プログラムとして再編強化する。

・地域包括ケア実習（医学生全員必修、1.5 単位、4・5 年次）

高齢化社会の中、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の一員として行動できる医師の育成に向けて、地域包括支援センターや訪問看護ステーション、消防署等において 1 週間の地域包括ケア実習を開講している。急性期医療から回復期医療、そして在宅医療への流れを理解し、地域包括ケアシステムにおける多職種連携がイメージできるよう、本実習の事前教育としてオンデマンド教育を導入し、地域包括ケアシステムの理解を深めるとともに効果的な地域包括ケア実習につなげる。

・離島医療・保健実習（医学生全員必修、1.5 単位、4・5 年次）

長崎県離島のコンパクトなコミュニティをフィールドとして、保健・医療・福祉・介護の現場を 1 週間でローテートして実践業務と有機的連携を体験しながら学ぶ参加型実習「離島医療・保健実習」を開講している。本実習の事前教育としてオンデマンド教育を導入し、地域の特性や社会資源などの背景と地域に根付いている地域ヘルスケア全般にわたって理解を深め、効果的な離島医療・保健実習につなげる。

・地域病院実習（医学生全員必修、1.5 単位、4・5 年次）

地域中核病院の機能と役割を学ぶため、長崎県本土の臨床研修病院に 1 週間滞在する診療参加型実習「地域病院実習」を開講している。地域病院に関するオンデマンド教材を作成し、事前教育としてオンデマンド教育を導入することで、地域中核病院の機能と役割について理解を促すとともに効果的な地域病院実習へとつなげる。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

長崎大学医学部の離島医療・保健実習、地域病院実習、地域包括ケア実習は、2004 年度に医学部医学科生全員を対象としてスタートし、改良と拡充を続けてきた地域医療教育の根幹をなすカリキュラムの一つである。長崎県離島のコンパクトな地域コミュニティと、そのコミュニティに根付いている包括的な地域医療・ケアと多職種連携の現場を最適な教育フィールドとして捉え、医学部医学科生に加え歯学部・薬学部・保健学科の学生が一部共修形式で実施する地域医療実習を作り上げ、このための地域拠点（離島医療研究所）を長崎県五島中央病院内に設置し教員を配置している。この教育に地域包括ケア実習と地域病院実習を加えて、多岐にわたる地域ヘルスケアシステム全体を体験しながら学ぶ実践教育を構築した。これまでに練り上げた地域医療教育の内容、組織的・計画的な展開

様式、マネジメント体制、指導体制（臨床教授制度＋臨床教育マイスター制度）、連携・連絡体制、FD/SD の実施体制等は効果的であり独創的である。この多岐にわたる実習施設の機能や役割をイメージすることは簡単ではないことから、広く各実習施設に関するオンデマンド教材を作成し、各実習の事前教育として導入するとともに連携大学に提供する取組は、地域のヘルスケア全般の理解促進とノウハウの横展開に貢献する新規性・独創性の高い取組である。

指導体制　連携教育センター・地域包括ケア教育センター・総合診療学・地域医療学・感染症学・救急医学の教員、地域医療機関の臨床教授等

開始時期　令和６年１月

養成目標人数（総数）　614 名

地域医療総合演習

熊本大学

取組む分野　地域医療、総合診療

対　象　者　医学部生（地域枠学生、および地域医療に興味を有す学生）

対 象 年 次　５年次

養成すべき人材像　地域医療における問題点を抽出し、その解決法を自ら模索し実行できる人材

科目等詳細

＜実習型科目＞

・地域医療総合演習（選択、１単位、５年次）

熊本大学では熊本県医師就学資金貸与学生を主な対象として、県内地域の理解を深め、将来の地域での勤務のための素地を作ることを目的に、義務を償還するために必要な制度の理解、地域医療に関する様々なテーマで毎月１回の「地域医療ゼミ」を学生主体で開催している。

今回本事業により新たに導入するコースとして、「地域医療総合演習」を実施する。本科目履修学生は、従来行われていた地域医療ゼミ開催に関して準備段階から参画する。具体的には、年間のゼミで取り扱うテーマの決定、講師選択、交渉、準備、そして地域医療ゼミを実施することが含まれる。地域医療ゼミの運営を通して、自身の学習すべき目標、地域医療の問題点等を知り、学生自身が将来、実際に勤務する具体的なイメージをつかむための学習方略について学生自身で検討し実行することにより、リーダーシップ、コミュニケーション能力、企画力の向上が期待できる。

地域医療ゼミへの参画状況、実施した地域医療ゼミの活動報告書、幹事としての省察（レポート）などをもとに総合的に評価する。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

履修学生自身が講義や実習を企画運営することに特色がある。

指 導 体 制　特任教員および大学病院地域医療支援センター教員にて指導する。

開 始 時 期　令和５年４月

養成目標人数（総数）　32 名

地域医療実習プログラム　(1)地域医療・福祉体験実習コース

熊本大学

取組む分野　地域医療、社会福祉・介護

対　象　者　医学部生（全員）

対 象 年 次　1 年次

養成すべき人材像

医学的視点に偏ることなく医療と社会のかかわりを学び、多職種と連携し地域医療の現場で、将来活躍することのできる人材

科目等詳細

＜実習型科目＞

・R5 年度　地域医療・福祉体験実習コース（全学生必修、1.5 単位、 1 年次）

本プログラムは、地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通じ、地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を、医学部低学年から段階的に身に着けることを目的とした実習コースである。本実習の後に続く他の実習コースへ、発展性をもって継続していく。医学部 6 年間を通じそれぞれの段階に応じた内容となっており、1 年生で行う“地域医療・福祉体験実習コース”は、その導入となるものである。

本プログラムでは、高齢者保健・福祉施設、心身障がい児（者）施設、慢性疾患療養施設などでの実習を行う。本事業により、事前学習にオンデマンド教材と VR コンテンツを活用した教育手法を導入し、高齢者施設や介護、リハビリテーション等についての理解を深め、効果的な高齢者保健・福祉施設などでの実習へとつなげる。特に VR コンテンツを活用した教育については、仮想空間の中でリアルな高齢者医療・介護のシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、高齢者への適切な対応等について修得させ、実際の実地実習に応用させる。実地実習では、医学的視点に偏ることなく医療と社会のかかわりを学ぶ。さらに多職種がかかわる地域医療の現場に赴くことで、多職種連携の実際を学ぶ機会とすることができる。地域における福祉・介護などの関係機関との連携を通じ、多職種連携・多職種協働やチーム医療を低学年の視点から具体的にイメージできる学習の場とする。また地域医療が、子供から大人まで全世代の健康にかかわることを実感し学修できる機会とする。具体的には、心身障がい児（者）施設、慢性疾患療養施設では、診療の流れの実感、スタッフとのコミュニケーション、在宅診療での家族への配慮などを経験する。高齢者保健･福祉施設では、高齢者とのコミュニケーション、利用者と接する際のマナー、実際の対応などを経験することになる。

（学修目標の設定）地域医療のイメージを、具体的に獲得する機会となるよう、学生各人が、実習先施設の特性に応じた、学習目標を設置し明確にすることで、単なる見学実習にとどめない。目標は、学生、大学教員、また受け入れ施設側との共同で設定する。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

地域医療実習プログラムは、医学部低学年から高学年のそれぞれの段階に応じた内容で 3 コースから構成されており、次の段階の地域医療実習へ、継続性、発展性を持った内容となっている。本コースでは、将来の地域医療の活躍につながることを期待した、準備段階としての教育内容とする。今回新たに、本実習の事前学習にオンデマンド教材や VR コンテンツを利用することで、実習施設の概要や実際をよりリアルに予習でき有意義な実習となることが期待できる。それぞれの学生は性格の異なる施設での実習となるため､実習終了後の振り返りの会では､経験共有､目標達成の確認､更に将来への課題の確認を重視する。またウェブを利用することで､実習先の指導スタッフの参加､フィードバックも期待できる。評価については､実習先での 360°評価に加え､設定した目標達成についてのレポート提出を求め、評価を行う。

指 導 体 制　特任教員、および臨床医学教育センター教員による、オリエンテーションと振り返りを行う。
さらに実習先での指導医、スタッフに対して FD、SD を行うことで、教育の質を担保する。

開 始 時 期　令和 5 年 9 月

養成目標人数（総数）　660 名

地域医療実習プログラム　(2)地域医療・プライマリケア体験実習コース

熊本大学

取組む分野　地域医療、総合診療、救急医療、内科、外科、小児科、産科・婦人科

対　象　者　医学部生（全員）

対 象 年 次　3 年次

養成すべき人材像　患者の疾病だけではなく生活背景や家族・介護者にも目を配る姿勢、患者の生活背景を考慮した診療、医療資源の限られた状況での診療、介護予防活動へ配慮できる人材。

科目等詳細

＜実習型科目＞

・R5 年度　地域医療実習コース（全学生必修、1 単位、3 年次）

本プログラムの目的は、6 年間を通じそれぞれの段階において、地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を早期から身に着けるための実習である。この“地域医療実習コース”では、医学部での基礎、臨床科目の学修経験知識が加わり連動した実習となる。

(実習の場、期待される実習内容）本プログラムでは、診療所、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センターでの実習を行う。地域医療支援病院及びこれに準ずる施設も可とする。

今回本事業により新たに、事前学習としてオンデマンド教材と VR コンテンツを活用した教育手法を導入し、診療所などでの診療や初期救急、コミュニケーション等について理解を深め、効果的な実習へとつなげる。特に VR コンテンツを活用した教育については、仮想診察室のなかでリアルな診療や初期救急等についてシミュレーション教育を繰り返し実践するプログラムを構築し、地域で求められている診療所業務について修得し、実地実習に繋げる。それぞれの施設では、医療面接から基本的身体診察の機会に積極的に参加し、コミュニケーション、患者と医師の関係を学ぶ。診療所では、外来診療に加え、訪問診療により在宅療養をおこなっている患者への医療にも参加することで、患者の疾病だけではなく生活背景や家族・介護者にも目を配る医師の姿勢について学ぶ。在宅療養支援診療所では、患者の生活背景を考慮した診療に加え、医療資源の限られた状況での診療について学ぶ。訪問看護ステーションは、在宅療養支援診療所とともに、幅広いケアの中での密度の高い患者家族との関わりに加え、医療モデルと生活モデルを一体的に学修し、在宅リハビリテーションについても学ぶ。地域包括支援センターでの実習についても、地域包括ケアの拠点として、高齢者への具体的な支援活動や、住民を対象とした介護予防活動の推進について学ぶ。

オリエンテーションでは、実習趣旨の確認や学習目標の明確化、設定を行う。学生は、性格の異なる施設での実習となるため、実習終了後の振り返りの会では、経験共有、目標達成の確認、更に将来への課題を確認する。またウェブの利用で、実習先の指導スタッフの参加、フィードバックも期待できる。評価については、実習先での 360°評価に加え、設定した目標達成についてのレポート提出を求め、評価を行う。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

地域医療実習プログラムは、医学部低学年から高学年の、それぞれの段階に応じた継続性を持った内容となっている。本実習コースでは、診療所、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センターといった実習先の特性を生かした、他では経験することが困難な教育内容となっている。今回新たに本実習の事前学習にオンデマンド教材や VR コンテンツを利用することで、実習施設の概要や実際をよりリアルに予習でき有意義な実習となることが期待できる。

指 導 体 制　特任教員、および臨床医学教育センター教員による、オリエンテーションと振り返りを行う。
さらに実習先での指導医、スタッフに対して FD、SD を行うことで、教育の質を担保する。

開 始 時 期　令和 5 年 12 月

養成目標人数（総数）　660 名

地域医療実習プログラム　(3)地域医療クリニカルクラークシップコース

熊本大学

取組む分野　地域医療、総合診療、救急医療、内科、外科、小児科、産科・婦人科

対　象　者　医学部生（全員）

対 象 年 次　5 年次～ 6 年次

養成すべき人材像　医学、医療の概念を幅広く捉え、地域医療における多様なニーズに対応できる人材。

科目等詳細

＜実習型科目＞

・R5 年度　地域医療クリニカルクラークシップコース

(全学生必修、特別臨床実習（38 単位）の中のコース、５－６年次)

本プログラムの目的は、6 年間を通じ、医学教育モデルコアカリキュラムにある、地域社会で求められる保健･医療･福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶことにある。これまで行ってきた実習のまとめとして、研修医、専攻医として、近い将来の地域医療の活躍につながることを期待した教育内容とする。本実習コースは、地域医療支援病院で行う。包括的かつ継続的な「地域完結・循環型医療」が社会のニーズとして取り上げられ、これらを提供する現場としての医療、医師の役割を認識する。

ここで学ぶべき内容として、コモンディジーズの診療経験、基本的診察手技の経験を重ねることが挙げられる。医療面接から基本的身体診察の機会に積極的に参加し、コミュニケーション、患者と医師の関係を学ぶ。診断と治療の経過に参加することにより、患者中心のチーム医療を学ぶ。さらには、救急医療では、初診患者の対応に参加することで、軽症から重症まで幅広く経験することも可能である。また、多職種が連携し協働する機会に参加する。高齢者に対する医療や介護だけでなく、全世代を見据えた地域保健や関連する地域福祉の現場に関わる。また、予防医療に関して、必要性を認識する機会を持つ。今回新たに作成する動画コンテンツについて、実習中には適宜オンデマンド教材に地域からアクセスし、知識の再確認や地域実習での問題抽出と解決に役立てる。さらに本事業による新規の大学間の交流として、熊本大学の学生による長崎大学、鹿児島大学の地域医療教育プログラムへの参加、また熊本大学が提供する地域医療クリニカルクラークシップコースへの長崎大学や鹿児島大学の学生の参加が可能となっている。

実施に当たってのオリエンテーションでは、実習趣旨の確認や学修目標の明確化。設定を行う。さらに今回新たに、オンデマンド教材を活用した教育手法を導入し、地域医療、救急医療、地域福祉についての予習を行う。また実習後の振り返りにおいて、学生は、性格の異なる地域での実習となるため、実習終了後の振り返りの会では、経験共有、目標達成の確認、更に将来への課題を確認する。またウェブを用いることで、本事業としての、長崎大学、鹿児島大学の学生、教師の参加も促す。評価については、実習先での 360°評価に加え、経験した内容のチェックリスト、設定した目標達成についてのレポート提出を求め、評価を行う。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

地域医療に関した三つの実習は、医学部低学年から高学年の、それぞれの段階に応じた継続性を持った内容となっている。特に本実習は、研修医、専攻医として、近い将来の地域医療の活躍につながることを期待した、準備段階としての教育内容となっている。

本事業による大学間の交流として、実習 3 週間のうち一週間は、調整の上、長崎大学、鹿児島大学が提供する大学外施設での実習も選択可能となっている。また更に 3 週間を、長崎大学や鹿児島大学のプログラム参加施設で実習することも可能である。さらに、当大学が提供する学外の実習施設へ、長崎大学や鹿児島大学の学生を受け入れることもできる。また希望者は、さらに複数タームの他施設での実習を行うこともできる。このように学生のニーズに応じて学生個々の大学間交流プログラムを構築することが可能であることは画期的である。

指 導 体 制

特任教員、および臨床医学教育センター教員による、オリエンテーションと振り返りを行う。また受入施設指導医等との FD、SD を行うことで、教育の質を担保する。また大学間での相互乗り入れ実習を行う学生に対しては、受け入れ側、送り出す側両方の役割を持つ、指導体制を整える。

開 始 時 期　令和 5 年 4 月

養成目標人数（総数）　660 名

感染症統合講義

熊本大学

取組む分野　微生物学、感染防御学、免疫学、血液内科学、呼吸器内科学、消化器内科学、泌尿器科学、脳神経内科学、小児科学、産科婦人科学、皮膚科学、整形外科学、眼科学、麻酔科・集中治療、臨床検査医学

対　象　者　医学部生（全員）

対 象 年 次　2 年次～ 4 年次

養成すべき人材像　医学、医療の概念を幅広く捉え、感染症対策における多様なニーズに対応できる人材。

科目等詳細

＜講義型科目＞

・R5 年度　感染症統合講義（全学生必修、2 － 4 年次）

熊本大学医学部医学科では、感染症に対して各専門分野の横断的な知識を習得させ、より高度な感染症に対応できる医療人を養成することを目的として、２年次微生物学、感染防御学、免疫学、３年次、４年次の臨床系科目（血液内科学、呼吸器内科学、消化器内科学、泌尿器科学、脳神経内科学、小児科学、産科婦人科学、皮膚科学、整形外科学、眼科学、麻酔科・集中治療、臨床検査医学）のうち感染症に関連する講義について、科目横断的に「感染症統合講義」として実施している。

今回本事業において長崎大学にて新たに作成される感染症に関する動画コンテンツを感染症統合講義に追加し、学生の感染症に関する理解をより深める。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

熊本大学にて、感染症について段階的、学年横断的に学習するプログラムにおいて、今回感染症研究・教育を強みとする長崎大学の感染症教育コンテンツを追加し学ぶ機会を作ることにより、これまで以上に深く広く感染症に関する学修が期待できる。

指 導 体 制　感染症統合講義担当講座教員

開 始 時 期　令和 5 年 4 月

養成目標人数（総数）　1,980 名

地域包括ケア演習

鹿児島大学

取組む分野　地域医療学分野（総合診療）

対　象　者　医学部医学科生全員

対 象 年 次　４年次

養成すべき人材像　患者（住民）の身体的・精神的・社会的問題から、患者の包括的ケアを考える事が出来る人材

科目等詳細

＜講義・演習型科目＞

・地域包括ケア演習（必修、１単位、４年次）

目的：離島やへき地での医療資源の乏しい地域での地域包括ケアを、患者や環境因子の把握を合理的に行える方策である、biopsychosocial model (BPS model) と macro-micro system (MMS) 含めて総合的に学び、患者に応用できる。地域医療のリーダーとして、多職種との連携を図ることができる。

方略：①患者の生物学的・精神的・社会的な問題点を、BPS model を用いて整理する方法を英文文献を抄読し学ぶ。そして、模擬症例をこれに当てはめて考察する（シミュレーション教育）。

※模擬患者を取り巻く環境や周囲の状況委などを、動画を用いて作成し、患者の状況を深く理解できるようにする。

②患者を取り巻く様々な組織、家族、医療人、システムについて、模擬患者を取り巻く環境を MMS に当てはめて認識する。

③模擬患者を上記２つの方法で考察し、具体的な地域包括ケアの方策をグループワークで検討する。

評価法：①地域包括ケアに導くためのツールに関する英文抄読内容

②模擬患者への応用内容（関係図式）を評価

③学生同士のディスカッションの態度を評価

・地域包括ケア講義（３コマ）

患者を取り巻く地域包括ケアシステムを講義を通して学ぶ

・地域包括ケア演習（12 コマ）

※すでにある科目、「地域・総合診療・症候」の中に新規に組み入れ大幅に変更する。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

地域包括ケアにおいて、患者を評価する biopsychosocial model（BPS）を用いた評価に加え、macro-micro system (MMS) を用いて、医療資源をシステムとして捉える手法を英文論文を抄読することにより理解する。また、その学びを他の学生に教授することにより、学習を深めることができる。この２つの手法を実際の学生が以前に経験した過去の症例（模擬症例）に当てはめて省察し、患者への地域包括ケアとして、どのようなアプローチが可能かをグループディスカッションにより討議し、コミュニケーション能力も身に着けることができる。新規性も独創性も高い。基本的に対面講義が可能な場合でもオンラインでの双方向講義が可能である。

一種のシミュレーション教育として位置づける。

これまで preliminary に６年生に同様の模擬症例を用いて行ってきたが、かなり効果的であったことから、地域包括ケアの提供が難しい状況の患者をどのようにケアするかについて、BPS と MMS を用いて段階的かつ機能的に考察する教育を体系化しシステマティックな演習形式の正課として確立させる。模擬症例を取り巻く環境等を追加する形で動画を作成するなど、リアリティを持たせて、３大学の同様のカリキュラムに提供する。

２つのツール（BPS、MMS）を用いて、多職種に対して説明ができるようなレベルに到達させる。

指 導 体 制　特任教員及び、地域医療学分野教員による、最終的な地域包括ケア提供内容の振り返りを行う。

開 始 時 期　令和５年５月

養成目標人数（総数）　713 名

初期地域医療実習１、初期地域医療実習２

鹿児島大学

取組む分野　地域医療学分野（総合診療）

対　象　者　地域枠学生、地域医療に興味のある医学生
同郷の自治医科大学医学生（１・２年次）

対 象 年 次　１年次・２年次

養成すべき人材像　地域の生活、文化、自然環境、医療環境をよく理解し、地域の実情を踏まえて患者に対応できる医師、住民や医療関係者とのコミュニケーションが図れる医療人

科目等詳細

＜実習型科目＞

・臨床実習（地域枠医学生・希望一般学生選択、各１単位、１年次：初期地域医療実習１、２年次：初期地域医療実習２）

目的：地域特有の生活、文化、自然環境、医療環境に関する素養を早期から身に付けるため、現地の医療機関を中心としたフィールドにおいて、滞在型の医療見学、体験、地域観察の実習を行う。

方略：実習前に、様式２（3）に記載の動画コンテンツや自大学作成の動画コンテンツを含め視聴する。夏季休暇期間を主に利用し、離島・へき地に４泊～５泊滞在し、現地の診療所・病院、役場などを見学する。医療機関では、直接住民（患者、その家族）と接しコミュニケーションを取る。非観血的な検査（血圧測定など）を行い、その手技を学ぶ。多職種（看護師、医療事務、薬剤師、理学療法士など）と接する機会を設ける。体験した内容を、他の地域枠医学生や関係者の前で発表する。
夏季実習に同行する、自治医科大学医学生（１・２年次）にも、視聴をお願いする。

評価法：① 360 度評価を実施する。
②教員が一緒に行動し、直接態度などを判定
③発表会の内容

新規科目である

教育内容の特色等（新規性・独創性）

実習前に、様式２（3）に記載の動画コンテンツを視聴することで、地域医療に関する事前学習が効率的に可能となり、実習の学習効果が上がる。動画コンテンツは、３大学が作成し、サーバーに格納し、必要なコンテンツが利用できるようにする。地域枠の１年生と２年生を一緒に実習させることで、小さな屋根瓦式指導体制を構築でき、より深く地域医療を学ぶことが出来る。本実習では、同郷の自治医科大学医学生（１・２年次）も同行する為、彼らにも事前ビデオ視聴をお願いし、情報を共有する事が出来る。
医療関係者だけでなく、役場、住民と接する機会を設け、**地域が医療者を育てる意識**を、地域の住民に醸成出来る。地域枠医学生は、将来の就労場所として深く認識できる。教員が実習に付き添い、十分な振り返りができる。将来同じ職場に従事する他学年同士の一定期間の交流は重要であり、新規性も独創性も高い。
動画コンテンツは、学生と教員が一緒になって３大学が作成し、サーバーに格納し、必要なコンテンツを利用できるようにする。これらのコンテンツは毎年作成し、段階的・継続的により充実したライブラリーを構築していく。

指 導 体 制　現地の医療関係者から直接指導を受ける。また、特任教員及び地域医療学分野教員や、地域医療支援センター教員が実習に付き添い、指導の補助を行う。

開 始 時 期　令和５年８月

養成目標人数（総数）　219 名

地域医療研究

鹿児島大学　長崎大学

取組む分野　地域医療学分野（総合診療）

対　象　者　地域枠医学生、地域医療に興味のある医学生

対 象 年 次　３年次（鹿児島大学）、１年次・２年次・３年次（長崎大学）

養成すべき人材像　離島やへき地の調査・研究を通して、地域の行政組織、医療環境等を理解でき、それを患者に還元できる医師

科目等詳細

＜実習型科目＞

・臨床実習（地域枠医学生・一般希望医学生選択、0.5 単位、３年次）

目的：地域特有の行政、自然環境、医療環境に関心を持つ意識を早期から身に付ける。関係者と接し、研究・調査を計画する事で、コミュニケーションスキルを学ぶ。

方略：夏休み期間を利用し、離島・へき地等のフィールドにおいて、行政機関・医療機関を中心とした施設で、地域の問題点の抽出し、それに関する調査・研究を行い、学生・教員・関係者の前で発表する。対象フィールドや研究の概要は、同年４-７月に、教員と相談の上決定する。基本的に１課題／１人とする。できるだけ多職種（看護師、医療事務、薬剤師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護士、行政など）と接する機会を設ける。研究調査結果を報告会で発表する。

更に、優秀演題を選定し、同年 10 月頃に開催する長崎大学との合同発表会（地域枠活動報告会）で発表し、地域医療・互いの地域の理解を深める。

評価法：①調査・研究内容の発表（内容・プレゼン状況）

特色：地域の課題を自分で考える。リサーチクエスチョンから調査・研究に落とし込むスキルを学ぶ。調査研究のための、必要なコミュニケーションを学ぶことが出来る。

新規科目である。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

地域枠医学生として、自分で研究もしくは調査課題を考える事を通して、地域の問題点を自ら積極的に捉える姿勢が身につく。リサーチクエスチョンから調査・研究に落とし込むスキルを学ぶ事が出来る。調査研究のための、必要なコミュニケーションを学ぶことが出来る。また、医療関係者だけでなく、役場、住民と接する機会ができることにより、コミュニケーション能力を滋養できる。これまでに科目としては施行されてこなかった斬新な教育である。また、地域の医療関係者・行政関係者・住民は、地域が医療者を育てる意識を醸成することが出来る。地域枠医学生は、対象地域を、将来の就労場所として深く認識できる。研究テーマを学生と教員が協議して設定し、基本的に１課題／１人とする事により、内容に責任を持った報告を行うことで、プレゼンテーションスキルを学べる。科目としての新規性や独創性も高い。

指 導 体 制　地域の課題・調査内容について、特任教員及び地域医療学分野教員が、一人ひとりと面談し、テーマを決定する。対象先には、教員が最初の繋がりを構築し、学生自身が夏休み期間やその前などに対象先と調整する。

開 始 時 期　令和５年５月

養成目標人数（総数）　112 名

地域医療リーダーシップ１、地域医療リーダーシップ２

鹿児島大学

取組む分野　地域医療学分野（総合診療）

対　象　者　地域枠学生、地域医療に興味のある医学生。自治医大の地元出身医学生。

対 象 年 次　１年次，５年次

養成すべき人材像　将来の勤務地の自然・文化・医療環境等に深い興味をもち、地域に貢献する意思を持った医師

科目等詳細

＜講義型科目＞

（地域枠医学生選択、他学生選択、0.25 単位、地域探訪１：１年次、地域探訪２：５年次）自治医大学生は任意

目的：自身が勤務する可能性がある離島やへき地等の自然、文化、医療機関、住民などをビデオを視聴することにより、地域の認識を深める。５年生は１年生に地域に関して学びのポイントなどを指導する。

方略：準備として、教員は、地域枠医学生が将来就労する地域の自然、文化、医療機関、住民などを撮影し、編集する。できるだけ、夏季の地域医療実習中の地域枠医学生（１・２年生）と共に地域を訪問し、一緒に作成するように配慮する（初期地域医療実習１、初期地域医療実習２の中で、地域のビデオも撮影する）。

・地域のビデオ視聴（４コマ）２学年共に同じビデオを視聴する
・地域医療のリーダーシップに関するビデオを含む
・討論・発表（１コマ）
①学生は、上記の画像を視聴し、地域の特徴を学ぶ。
②学生同士、自分の感想などを討論し、グループワークで地域医療の在り方、地域医療のリーダーシップに関して考えをまとめる。
③５年生は、１年生に対し、学びのポイントや、ディスカッションのやり方、プレゼンテーション方法などを指導する。地域医療の在り方、地域医療のリーダーシップに関して考えをまとめる。視聴時間は１年生の時間割に合わせるため、視聴時間が合わなかった５年生はオンデマンドで視聴する。
④同郷の自治医科大学医学生にも、同じビデオの視聴を推奨し、時間が合えば討論に参加するよう呼びかける。

評価法：学生同士のディスカッションの態度を教員が評価
プレゼンテーション内容を学生同士が評価する。

新規科目である。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

地域医療実習として現地を訪れたとしても、天候や時間的制約により、多くの情報を常に得ることはできない。ビデオ作製により、必要な情報が多く視聴でき、将来の勤務先の情報を、学年が早い段階で知ることができ、地域医療への興味を高められる。

オンデマンド配信も可能であり、学年が上がってからも視聴でき、モチベーションの維持や、自分自身の考え方の変化も知ることができる。

ビデオ作製に加わった学生（地域枠医学生等１・２年生）は、より地域医療への興味が高まることが期待される。

同県の自治医大医学生は、将来地域枠卒業医師と共に働く地域の情報を、地域枠医学生と共に得、共に感じることができる（多くの就労対象医療機関が、自治医大医師と地域枠医卒業医師は一緒である）。

５年生が１年生を指導することで、５年生自身の学びが深まる。更に、将来同じ環境・場所で働く者同士の縦の繋がりができる。

地域医療のリーダーシップに関して、指導体験を通して具体的に学ぶことが出来る新規性・独創性が高いプログラムである。本事業開始以降は、連携大学が強味を活かして作成する動画コンテンツを活用していくとともに、鹿児島大学でもコンテンツ作成を進め、連携大学に提供する予定である。

指 導 体 制　特任教員による教材動画の作成。特任教員及び、地域医療学分野教員による、ディスカッション及び発表内容の直接指導。

開 始 時 期　令和５年 10 月

養成目標人数（総数）　218 名

地域医療リーダー育成 DX 演習

長崎大学　熊本大学　鹿児島大学

取組む分野　地域医療学分野（総合診療）、感染症、災害医療、救急医療

対　象　者　３大学の地域枠学生、地域医療に興味のある医学生。

対 象 年 次　４～５年次（大学のカリキュラムに合わせる）

養成すべき人材像　地域医療で求められる、総合診療、感染症、災害医療、救急医療の知識とスキルを理解し、地域医療のリーダーとしての自覚を持った人材

科目等詳細

＜講義型科目＞

（地域枠医学生選択、他学生選択、0.5 単位、５年次）

目的：ＶＲ装置と、コンテンツを用いて、地域医療で求められる、総合診療、感染症、災害医療、救急医療の分野の知識とスキルをリアリティを持って理解し、地域医療のリーダーとしての自覚を涵養する。

方略：準備として、教員は、ＶＲコンテンツ（総合診療、感染症、災害医療、救急医療）を製作する。

①学生は、上記のＶＲコンテンツを用いて地域での総合診療、感染症、災害医療、救急医療の現場を疑似体験し、必要な知識とスキルの獲得の重要性を認識する。

②学生同士、自分の感想などを討論し、グループワークで地域医療の在り方に関して考えをまとめる

・ＶＲコンテンツ（総合診療、感染症、災害医療、救急医療）演習（６コマ）

・討論・発表（１コマ）

評価法：ＶＲ教材での学習態度をインストラクター教員が評価

プレゼンテーション内容を学生同士が評価する

新規科目である。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

学生は、地域医療の現場で、リーダーとして求められる知識、行動、スキルについて、作成されたＶＲコンテンツを用いて疑似体験により学ぶ。ＶＲコンテンツは、既存の感染症、救急医療、総合診療も使用するが、長崎大学、熊本大学、鹿児島大学が作成したオリジナルコンテンツも用いて学ぶ。

疑似体験が出来るＶＲコンテンツを用い、リアリティーを持った教育方略となり、新規性・独創性が高い。

３大学で各々が優れる分野の VR コンテンツを作成し、コンテンツを共有しながら養成したインストラクター教員が指導する。インストラクター教員育成（FD/SD）をあわせて行う。

指 導 体 制　特任教員による教材動画の作成。特任教員及び、地域医療学分野教員による、ディスカッション及び発表内容の直接指導。

開 始 時 期　令和６年６月

養成目標人数（総数）　216 名

新興・再興感染症

鹿児島大学

取組む分野　地域での感染症管理

対　象　者　医学科４年生全員

対 象 年 次　４年次

養成すべき人材像　新規・再興感染症に関し、深い知識と感染対策スキルを持って、感染対策ができる医師

科目等詳細

＜講義型科目＞

（地域枠医学生・希望する一般医学生選択、２単位、４年次）

目的：COVID-19 感染をはじめとする、新興・再興感染症対策は、県内広域の連携が必要である。深い知識と感染対策スキルの基に、感染対策のリーダーとしてのリーダーシップ力が発揮できるように、鹿児島県での経験に加え、長崎大学の感染症対応を学ぶ。

方略：鹿児島大学教員、鹿児島県感染対策担当者、鹿児島県医師会感染対策理事、鹿児島市保健所、奄美大島の感染対策医師、在宅医療での感染対策経験医師の講義に加え、長崎大学の感染症対策に関するＷＥＢ配信講義を行う。

①学生は、鹿児島県内で経験された新興感染症対策と共に、感染症専門医の重要性を学ぶ。

②地域での感染対策について、鹿児島県・長崎県の経験から、対策の重要性を学ぶ。

・鹿児島県関係者・在宅医療関係者の講義（14 コマ）

・長崎県の感染対策（1 コマ）

・長崎大学作成感染症専門医の重要性（１コマ）

評価法：・試験

・レポート作成

既存科目「新興・再興感染症」の内容を刷新するものである。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

令和３年度に新規に設定された、医学科４年次必修科目「新興･再興感染症」は、鹿児島県内の経験を中心に、診断、治療、予防、新薬開発、在宅医療での管理、感染対策（医療機関・行政）、産科対応、検体採取・管理、関係する演習について教授・実施した。これらに、感染症教育の最も進んでいる長崎大学の教員から、長崎県での体験や感染症専門医の重要性に関する講義を加えることで、感染対策に関し知識をさらに深め、感染症に対する関心を高めることができる。長崎大学が作成した感染症分野に特化したコンテンツをオンデマンドで用いるなど、効率的に学びを深める取組として新規性が高い。

指 導 体 制　長崎大学感染症教員、鹿児島大学教員、鹿児島県感染対策担当者、鹿児島県医師会感染対策理事、鹿児島市保健所、奄美大島の感染対策医師、在宅医療での感染対策経験医師による講義・演習

開 始 時 期　令和５年 10 月

養成目標人数（総数）　713 名

麻酔・集中治療・救急

鹿児島大学

取組む分野　麻酔、集中治療、救急、災害医療

対　象　者　医学科４年生全員

対 象 年 次　４年次

養成すべき人材像　麻酔・集中治療・救急・災害医療に関し、深い知識と感染対策スキルを持って、全身管理と災害への医療人としての対応ができる医師

科目等詳細

＜講義型科目＞

（地域枠医学生・希望する一般医学生選択、２単位、４年次）

目的：麻酔・集中治療・救急・災害医療の分野では、全身管理の知識・スキルと共に、地域での様々な情報を処理し、対応する能力が求められる。これまでの鹿児島大学での教育に加え、熊本大学の熊本地震や、熊本豪雨への対応の経験を基にした、災害医療県での経験・スキルを教授し、上記知識・対応能力を獲得する。

方略：鹿児島大学教員等による、従来の講義に加え、熊本大学の災害医療 +C21 に関するＷＥＢ配信講義を行う。

①学生は、麻酔・集中治療・救急領域の、全身管理、集中治療患者管理を学ぶ。

②地域での感染対策について、鹿児島県・長崎県の経験から、対策の重要性を学ぶ、

・鹿児島県関係者・在宅医療関係者の講義（27 コマ）

・熊本大学による災害医療（２コマ）

評価法：・試験

・レポート作成

既存科目「麻酔・集中治療・救急」の内容を刷新するものである。

教育内容の特色等（新規性・独創性）

現在鹿児島大学医学科で行っている、４年時必修科目「麻酔・集中治療・救急」では、災害医療に関する内容は十分に行われていなかった。熊本大学は、熊本地震（震度７、２回）や、熊本豪雨を複数回経験し、災害医療の経験やその対策に関し、多くの知識・スキルを有している。既存の科目にこれらの救急分野での講義を加えることで、経験を基にした立体的な学習ができる。

連携大学作成のその大学に特化した得意分野のコンテンツをオンデマンドで用いるなど、新規性・独創性が高い。

指 導 体 制　熊本大学救急領域教員、鹿児島大学麻酔科・救急集中治療部教員等による講義資料作成と抗議の実施。評価は鹿児島大学教員が行う。

開 始 時 期　令和５年５月

養成目標人数（総数）　713 名

5 事業内容

長崎大学　熊本大学　鹿児島大学

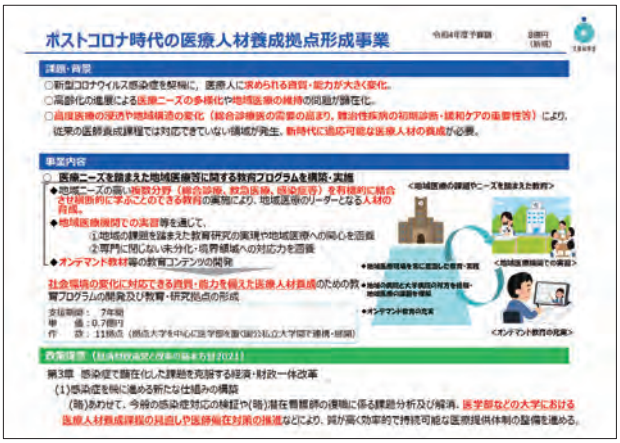
次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト
～地域とくらしを支える医療人の育成～

長崎大学
医療人材連携教育センター
拠点本部長　永田 康浩

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
3大学キックオフシンポジウム　2023.2.14

長崎大学・熊本大学・鹿児島大学
次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト
～地域とくらしを支える医療人の育成～

長崎大学
医療人材連携教育センター
拠点本部長　永田康浩



事業に求められること

- 新時代に適応可能な医療人材の養成
  - 医療ニーズの多様化
  - 高度医療の浸透と地域構造の変化
  - 求められる資質、能力の変化
- 医療ニーズを踏まえた地域医療等に関する教育プログラムの構築・実施
  - 総合医療、救急医療、感染症等
  - 地域医療機関での実習
  - オンデマンド教材の開発

申請件数：
18件
採択大学：
11拠点
（26大学）

No.	区分	代表校名	連携校名	事業名
1	国	弘前大学	秋田大学	多職種連携とDX技術で融合した地域医療教育コモンズ
2	国	筑波大学	東京医科歯科大学	地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダーの養成
3	国	千葉大学	東邦大学	地域医療への高い情熱と好奇心を涵養して総合力・適応力・教育力を備えた地域志向型医療人材養成プログラム
4	国	富山大学	新潟大学	健康医学と社会医学を駆使して地域を守る医療人の養成
5	国	名古屋大学	岐阜大学	医療人種学とバーチャル教育を活用した豊饒互式地域医療教育（豊饒+A）
6	国	岡山大学	島根大学、鳥取大学、香川大学	多様な心・豊・海を活り個別医療に学ぶ「多地域共創型」医学教育拠点の構築
7	国	長崎大学	北里大学、聖マリアンナ医科大学	長崎医療人養成プロジェクト
8	国	長崎大学	熊本大学、鹿児島大学	次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト～地域とくらしを支える医療人の育成～
9	国	宮崎大学	東京慈恵会医科大学	地方と都市の医療格差を解消しながら拡がる 医師養成モデル事業～AMEH化プログラム、病気を診ずして病人を診よ～
10	国	琉球大学	佐賀大学	島医者・山医者・里医者育成プロジェクト（沖縄医療・総合診療に対応できる医師育成）
11	私	埼玉医科大学	群馬大学	埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

3大学で行うこと（共通部分）

- 学生・教員の交流（地域医療交流実習プログラム）
- 単位互換制度の創設
- VRコンテンツ・オンデマンド教材と教育PGの開発・配信（総合診療・救急災害医療・感染症 など）
- ICT基盤の確立（Learning Management Systemの拡充）
- 教員研修の推進
- 地域枠制度の再構築（診療科指定の地域枠創設）
- 高大連携の推進

3大学で行うこと（共通部分）

- 学生・教員の交流（地域医療交流実習プログラム）
- 単位互換制度の創設

熊本大学から鹿児島大学の教育病院へ
（出水総合医療センター）

3大学で行うこと（共通部分）

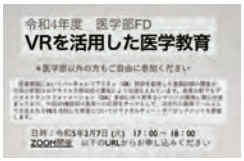
- VRコンテンツ・オンデマンド教材と教育PGの開発・配信（総合診療・救急災害医療・感染症 など）
- ICT基盤の確立（Learning Management Systemの拡充）

＜イメージ＞

ログイン/サインイン画面　各大学認証画面　コース一覧（上）／コース内容（下）

3大学で行うこと（共通部分）

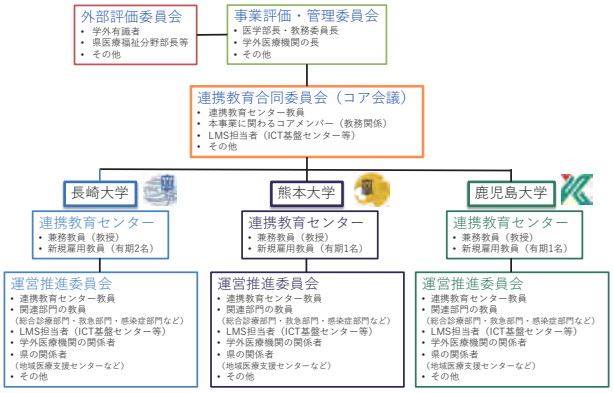
- 教員研修の推進
- 地域枠制度の再構築（診療科指定の地域枠創設）
- 高大連携の推進



3大学共催のFD

各大学、県の状況に応じて

管理・運営・評価体制



連携教育合同委員会（コア会議）毎月定例開催

これまでの議題
- センター内規の設定
- 単位互換協定の締結
- 連携教育協定の締結
- 個人情報の管理
- 教育プログラムの運営
- LMS共有に向けた調整
- シンポジウム開催
- FD開催　etc.

12

全国フォーラム
一橋講堂、東京
2023.1.11

特別講演の尾身茂先生

今後の開催予定

R4年度	筑波大学
R5年度	千葉大学
R6年度	長崎大学
R7年度	名古屋大学
R8年度	富山大学
R9年度	岡山大学
R10年度	高知大学

全国版ホームページから
本事業の動画が視聴できます

- https://plaza.umin.ac.jp/postcorona-GP/

14

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
3大学キックオフシンポジウム　2023.2.14

長崎大学・熊本大学・鹿児島大学
次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト
～地域とくらしを支える医療人の育成～

本プロジェクトへのご理解、ご協力のほど
よろしくお願いいたします。

長崎大学

長崎大学の取り組み

長崎大学生命医科学域
医療人材連携教育センター
川尻 真也

令和5年2月14日
３大学キックオフシンポジウム
次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト
～地域とくらしを支える医療人の育成～

長崎大学の取り組み

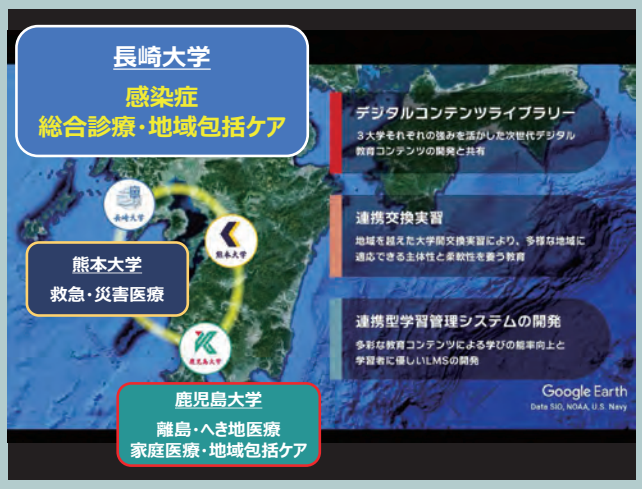
川尻　真也
長崎大学生命医科学域　医療人材連携教育センター

長崎大学 医療人材連携教育センター スタッフ紹介

氏名	所属	役職
永田 康浩	地域医療学分野	教授
川尻 真也	医療人材連携教育センター	准教授
二里 哲朗	医療人材連携教育センター	助教
浜崎 大介	生命医科学域 学術・管理課(管理)	主査
楠本 睦	生命医科学域 学術・管理課(管理)	課員
岡田 薫	医療人材連携教育センター	事務

長崎大学　事業推進委員

	氏名	所属	役職
センター長	永田 康浩	地域医療学分野	教授
副センター長	川尻 真也	医療人材連携教育センター	准教授
委員が指名する学外医療機関の教育担当者	野中 文陽	離島・へき地医療学講座	助教
その他委員長が必要と認めた者	前田 隆浩	総合診療学	教授
その他委員長が必要と認めた者	古本 朗嗣	病院 感染症医療人育成センター	教授
その他委員長が必要と認めた者	高山 隼人	病院 地域医療支援センター	教授
その他委員長が必要と認めた者	古賀 掲維	ICT基盤センター	准教授
その他委員長が必要と認めた者	二里 哲朗	医療人材連携教育センター	助教



長崎大学の目指すもの

■**感染症**：充実した感染症診療・教育基盤を活用した感染症診療と予防・コントロール教育のコンテンツ開発

■**総合診療・地域包括ケア**：総合診療科と地域包括ケア教育センターの広域的な活動基盤を活用したプライマリ・ケアと難治性疾患の教育コンテンツ開発

連携

長崎県

ながさき地域医療人材支援センターと離島・へき地医療支援センターを中心としたキャリア支援と医療提供体制の構築

本事業申請書より抜粋

長崎県の医療の特徴

長崎県の特徴

- 離島・へき地が多く、県面積の約40%が離島を占める。
- 県人口の約10%が島で生活をしている。
- 人口減少・少子高齢化が急速に進んでいる。

全国	長崎県	本土部	離島部
267.0	332.8	343.5	213.7

△長崎県における医師の偏在化

離島・へき地の医療

- 慢性的な医療人材不足（専門医の不在）
- 都市部との医療格差（医師の偏在化）
- 慢性期医療・在宅医療需要の増加

ながさき地域医療人材支援センターHP
長崎県医療計画

長崎大学の地域拠点（離島）と連携協定

内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議資料より

長崎大学の特色①：離島実習

【地域中核病院】

1. **地域中核病院機能の理解**
   プライマリ・ケアと専門医療がミックスした実習
   病院の案内見学
2. **一般病院での医療体験**
   外来実習（予診の聴取）
   健診（人間ドック）付き添い実習
   各種臨床検査の介助、病棟・手術室実習など
3. **離島・地域医療ならではの医療体験**
   救急ヘリ搬送、遠隔医療、離島に多い疾患など

【診療所、二次離島】

1. **へき地診療所の役割を理解**
   外来診療の見学・体験
   出張診療、巡回診療、老人ホーム回診への同行
   予防接種などの保健予防活動への同行
2. **暮らしに近い医療の体験**
   訪問診療への同行

離島・へき地医療学講座（離島医療研究所）　野中 文陽先生提供

長崎大学の特色①：離島実習

【保健実習】

1. **保健所**
   保健所業務の紹介
   問題事例についてのグループ討論
   保健所事業への同行・見学
   精神障害者サポートセンターでのふれあい実習
2. **市・町の保健行政**
   保健事業の体験実習（健診、機能回復訓練など）
   健康増進事業での体験実習（健康教室など）
3. **医・歯・薬共修**

【介護・福祉実習】

1. **介護サービスの体験**
   デイサービスでの体験実習（送迎を含む）
   特殊浴、車椅子、介護特殊車両の体験実習
   訪問介護への同行と体験実習
2. **介護保険制度の理解**
   介護認定シミュレーション実習
3. **医・歯・薬共修**

離島・へき地医療学講座（離島医療研究所）　野中 文陽先生提供

離島医療・保健実習の実施施設

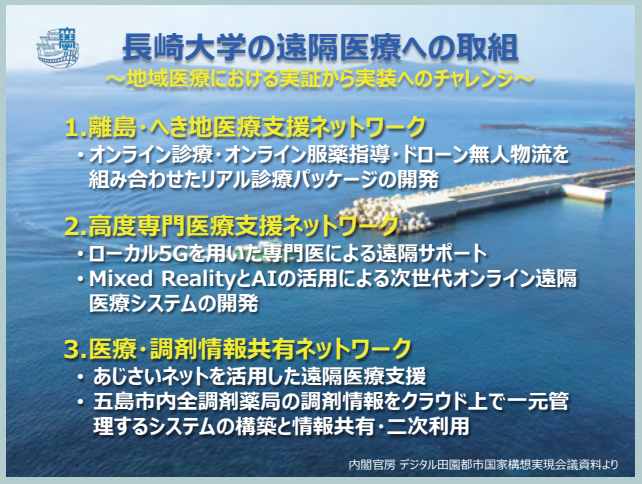
長崎大学の特色②：感染症

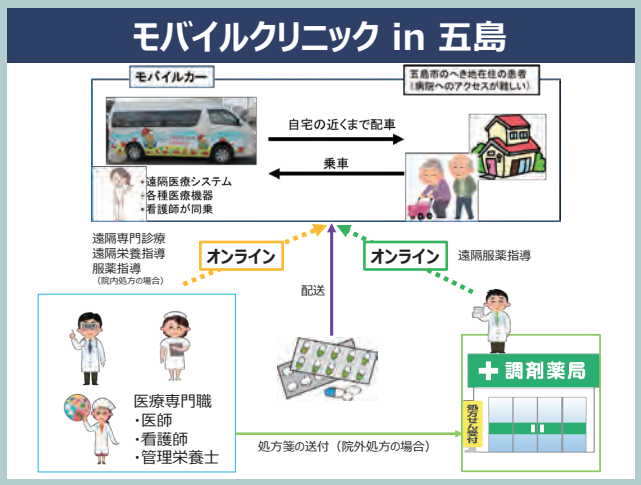
長崎大学の特色③：デジタルコンテンツ

2021年8月31日
コロナ禍におけるVRコンテンツ撮影風景
in 長崎大学

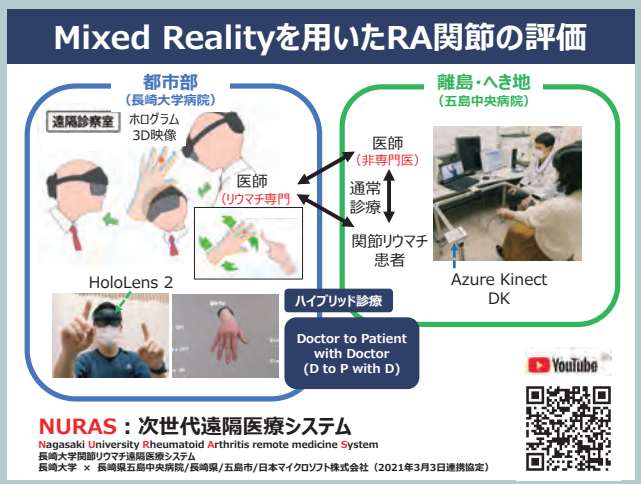
感染症VRコンテンツ
- ベッドサイドの感染予防
- 個人防護具の脱ぎ方

学生授業風景▷
（2年生医と社会）


長崎大学の遠隔医療への取組
～地域医療における実証から実装へのチャレンジ～
1.離島・へき地医療支援ネットワーク
・オンライン診療・オンライン服薬指導・ドローン無人物流を組み合わせたリアル診療パッケージの開発
2.高度専門医療支援ネットワーク
・ローカル5Gを用いた専門医による遠隔サポート
・Mixed RealityとAIの活用による次世代オンライン遠隔医療システムの開発
3.医療・調剤情報共有ネットワーク
・あじさいネットを活用した遠隔医療支援
・五島市内全調剤薬局の調剤情報をクラウド上で一元管理するシステムの構築と情報共有・二次利用
内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議資料より


モバイルクリニック in 五島
モバイルカー
五島市のへき地在住の患者（病院へのアクセスが難しい）
自宅の近くまで配車
乗車
・遠隔医療システム
・各種医療機器
・看護師が同乗
遠隔専門診療
遠隔栄養指導
服薬指導
（院内処方の場合）
オンライン
オンライン
遠隔服薬指導
配送
医療専門職
・医師
・看護師
・管理栄養士
処方箋の送付（院外処方の場合）
調剤薬局
処方せん受付

モバイルクリニックの実際
①患者自宅付近へモバイルカーを配車
②患者がモバイルカーへ乗車（看護師がサポート）
患者
看護師
③モバイルカー内で看護師によるバイタル測定
医学部臨床実習「離島医療・保健実習」での指導風景
④医師によるオンライン診療
患者
（診療所にいる）医師の画面
診察のサポートの指示
看護師


Mixed Realityを用いたRA関節の評価
都市部
（長崎大学病院）
遠隔診療室
ホログラム
3D映像
医師
（リウマチ専門
HoloLens 2
離島・へき地
（五島中央病院）
医師
（非専門医）
通常
診療
関節リウマチ
患者
Azure Kinect
DK
ハイブリッド診療
Doctor to Patient
with Doctor
(D to P with D)
YouTube
NURAS：次世代遠隔医療システム
Nagasaki University Rheumatoid Arthritis remote medicine System
長崎大学関節リウマチ遠隔医療システム
長崎大学 × 長崎県五島中央病院/長崎県/五島市/日本マイクロソフト株式会社（2021年3月3日連携協定）

まとめ
離島・へき地の多い長崎県の特徴（魅力）
長崎大学の特色
■感染症
■総合診療・地域包括ケア
■地域医療
■離島・へき地医療
■デジタルコンテンツ
強固に連携
熊本大学
鹿児島大学
地域に根ざした質の高い医療人材育成

熊本大学

熊本大学の取り組み

熊本大学生命科学研究部
総合医学教育学講座
助教　永芳　友

20230214 3大学キックオフシンポジウム
次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト
~地域とくらしを支える医療人の育成~

熊本大学の取り組み

熊本大学生命科学研究部
総合医学教育学講座
助教
永芳　友

次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト ~地域とくらしを支える医療人の育成~

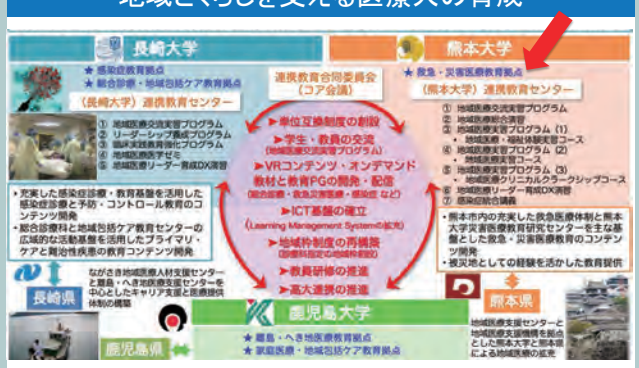
熊本大学医学部連携教育センター

センター長：尾池雄一
臨床医学教育研究センター副センター長：大場隆
センター特定事業教員：山村遼介

事務補佐員：里本結

総合医学教育学講座 助教：永芳友

次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト ~地域とくらしを支える医療人の育成~



熊本における災害

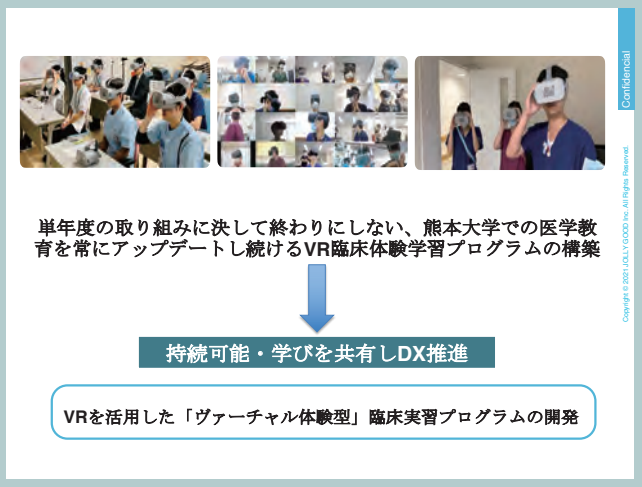
2016年　熊本地震

2020年　熊本豪雨

熊本県における大規模災害での医療経験を
他大学とも共有する

熊本大学病院 災害医療教育研究センター

熊本大学病院
災害医療教育研究センター
センター長
笠岡　俊志教授

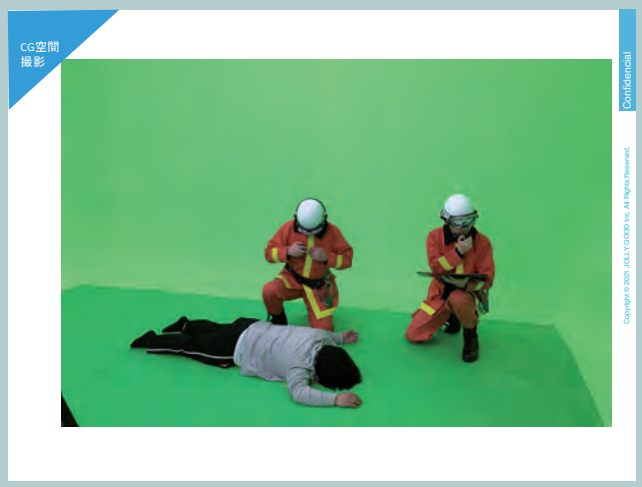

Confidencial
単年度の取り組みに決して終わりにしない、熊本大学での医学教育を常にアップデートし続けるVR臨床体験学習プログラムの構築
持続可能・学びを共有しDX推進
VRを活用した「ヴァーチャル体験型」臨床実習プログラムの開発
Copyright © 2021 JOLLY GOOD Inc. All Rights Reserved.

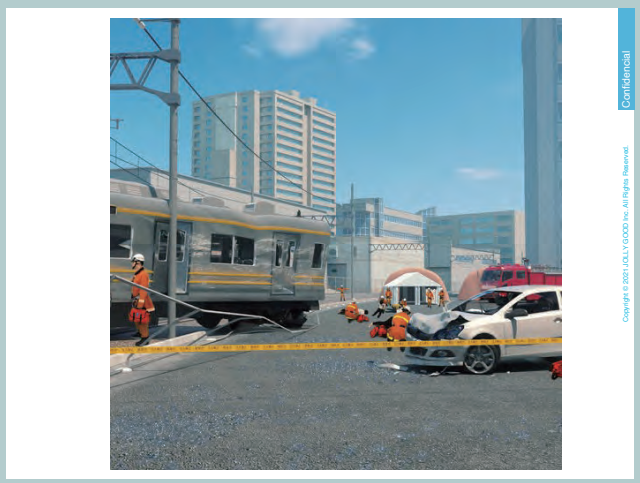
プロジェクト概要
「災害救急医療VR」
「病院内での救護班編成」「事故現場での活動内容」「トリアージ」・・・
列車脱線事故発生直後の一連の救急措置をテーマとした
教育VRコンテンツの開発
01
次世代型教育・創造活動拠点病院プロジェクト
～地域を支える医療人の育成～
長崎大学、鹿児島大学、熊本大学との
三大学連携プロジェクトの一環
02
災害救急医療コンテンツを2023年3月9日
岩手開催される「第28回日本災害医学会
総会・学術集会」にて初公開

制作コンテンツテーマ
出動現場
現場
救急車内
搬送
病院内での救護班編成
フルCGによる危険判断
現場指揮官とのやり取り
第二次トリアージ
病院への救急搬送

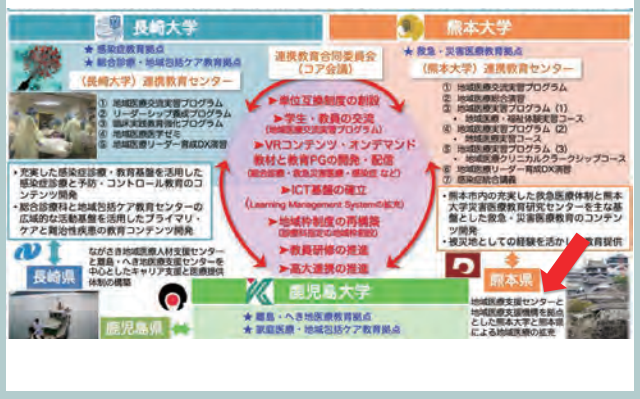
救護班編成
Confidencial
Copyright © 2021 JOLLY GOOD Inc. All Rights Reserved.

出動準備
Confidencial
Copyright © 2021 JOLLY GOOD Inc. All Rights Reserved.


CG空間撮影
Confidencial
Copyright © 2021 JOLLY GOOD Inc. All Rights Reserved.



次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト ~地域とくらしを支える医療人の育成~



熊本県地域医療交換実習拠点

くまもと県北病院での実習予定

【実習指導者】
くまもと県北病院
総合診療科部長
小山　耕太先生

実習スケジュール
地域医療交換実習プログラム名「くまもと県北病院」

	3月7日（月曜日）	3月8日（火曜日）	3月9日（水曜日）	3月10日（木曜日）	3月11日（金曜日）
8：30～		総合診療科　カンファレンス	クリニック実習（安成医院）	総合診療科　カンファレンス	
9：00～	オリエンテーション（中村）			病棟回診（中村）	総合診療科研修（総合診療科研修医）
10：00～	総合診療科外来研修（総診研修医）	総合診療科研修（回診）		病院薬局研修	
12：30～	病院紹介（当院研修医）				
15：00～	レクチャー（中村）「未定（準備中）」	多種職カンファ		レクチャー（小山）「求められる医師像」	玉名市民　皮膚訪問
16：00～					実習総括（小山）
17：00～	振り返り（中村）			振り返り（中村）	

＊留意＞　研修中の宿泊場所（下宿等）の手配は当方に一任されましたら、研修期間中にご面倒のため、「当大分県」へ連絡してください。

・総合診療科カンファレンス：朝、夕方に実施。病院入院患者全ケースの検討を行う。
・オリエンテーション：熊大分室で主要スケジュールについての説明を行う。
・病棟回診：担当指導医による、新規入院患者の病棟回診に参加する。
・外来研修：担当指導医による、総合診療科外来に参加する。状況に応じて、他急外来研修を組み込む場合がある。
・病棟研修：担当指導医による、病棟診療に参加する。
・診療科研修：各領診療科等の研修に参加する。
・クリニック実習（安成医院）：地域のクリニックにおける、各種診療実習に参加する。想定される診療（訪問診療、訪問看護、学校医業務 etc.）　＊状況に応じて内容は調整される。
・病院紹介：当院研修医による、病院・研修紹介レクチャーに参加する。
・各種レクチャー（熊大分室）：担当指導医による、レクチャーに参加する。
・多種職カンファ（熊大分室）：多種職が参加する、週毎調整カンファに参加する。
・病院薬局研修：当院病院薬局で、薬剤師の各種仕事内容の実習・レクチャーに参加する。
・玉名市民皮膚訪問：玉名市役所に赴き、玉名地域の医療看護に対するビジョンについて、議論する。
・昼食、昼休み時間程度は適宜とる。

熊本県地域医療交換実習拠点

天草郡市医師会立天草地域医療センター

小国公立病院

【実習指導者】
天草地域医療センター
総合診療科部長
谷口純一先生

【実習指導者】
小国公立病院
病院管理者
片岡恵一郎先生

熊本大学からの学生派遣

学生1名派遣
2023/1/30-2/3

出水総合医療センター(鹿児島県)

学生1名・教員2名派遣予定
2023/2/20-2/24

五島中央病院(長崎県)

交換学生実習の様子

【学生の感想】
今回、出水総合医療センターでは院内の様々な部署、診療科、診療所で実習させていただき、病院が地域の中でどのような役割を担っているか、また、限られた人数の中でその役割を果たすためにどのような努力、工夫をされているかなど多くのことを学ぶことができました。また鹿児島大学の学生と一緒に実習することができたことも良い経験となりました。今回は実習を受け入れてくださり、ありがとうございました。

これまでにない、活発な連携教育を目指して

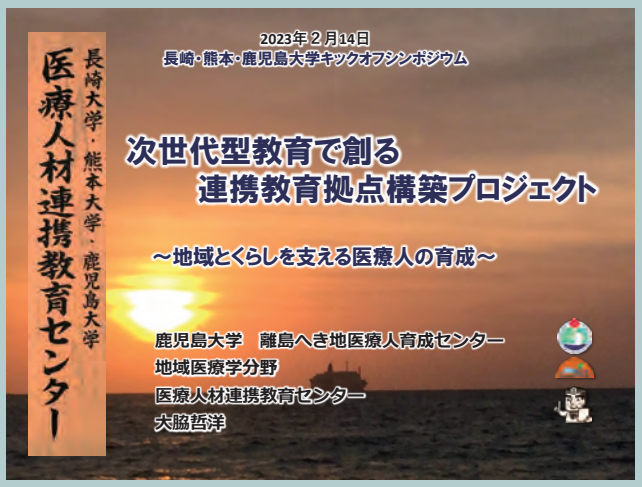
ご静聴ありがとうございました

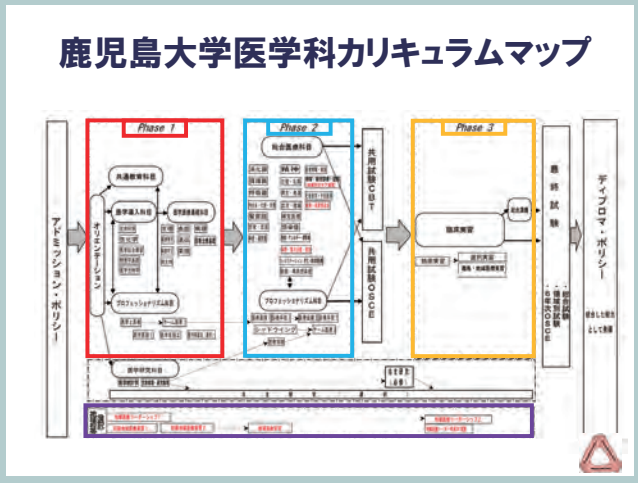
熊本大学
Kumamoto University

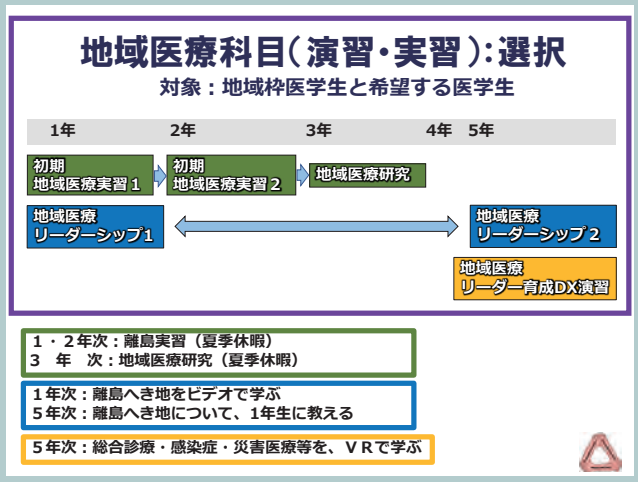
鹿児島大学

次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト
～地域とくらしを支える医療人の育成～

鹿児島大学　離島へき地医療人育成センター
地域医療学分野　医療人材連携教育センター
大脇 哲洋







地域医療研究

対象：地域枠医学生と希望する医学生（３年次）

４-６月に、３年次の希望学生と地域枠医学生と個別にテーマを決定
↓
テーマに添った医療機関等の選定
↓
医療機関等に大学から通知
↓
学生自身が連絡し、医療機関等と調整
・計画立案（医療機関等とも相談）
・夏季休業期間内の日程調整
↓
研究・調査
↓
発表（９月）

- 大隅地域の救急態勢
- 奄美大島のドクターヘリの利用と課題
- 霧島市の母子保健への取り組み
- 地域枠女性医師の働き方
- 枕崎市の産科医療
- 姶良市の山間部での医療の現状課題
- 小離島の透析問題
- 徳之島の保健師活動
- おすそ分け文化について

地域医療リーダーシップ1・2

対象：地域枠医学生と希望する医学生（１・５年次）

離島・へき地の医療機関や環境のビデオ視聴
↓
１・５年生が地域医療のリーダーシップについて討議
５年生が１年生の考えを聞いてアドバイス
グループワーク（教員がファシリテーター）
↓
班ごとに発表
↓
総評

地域医療リーダー育成DX演習

対象：地域枠医学生と希望する医学生（５年次）

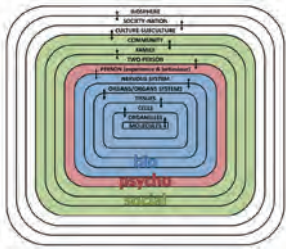
VRコンテンツを用いて、感染症、災害医療、総合診療を学ぶ

地域包括ケア演習

対象：４年次医学生全員

「地域医療・総合診療・症候」の中で学ぶ

・地域包括ケアを多職種で考える方策を学ぶ
「clinical microsystem」「bio-psycho-social model」
・模擬症例（実際に先輩の経験した症例）に応用する



Engel G.L. The clinical application of the biopsychosocial model. Am. J. Psychiatry 1980, 137, 535–544.
Farre A and Rapley T. The New Old Medical Model Four Decades Navigating the Biomedical and Psychosocial Understandings of Health and Illness. Healthcare 2017, 5,88.

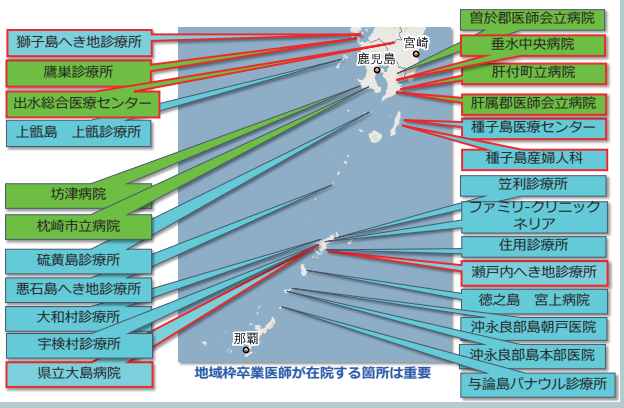
「麻酔・集中治療・救急」に追加（４年次前期）

「災害医療」について、熊本大学作成コンテンツを用いて学ぶ

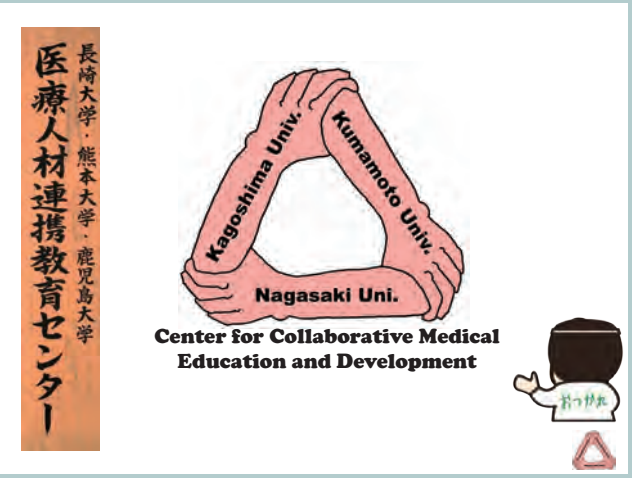
「新興・再興感染症」に追加（４年次後期）

「感染症対策」について、長崎大学作成コンテンツを用いて学ぶ

連携施設での実習



行き先は変えられない
後戻りはできない
少子高齢化
医療機関減少
CO2 排出量減
人口減少
国家財政減少
地方過疎
日本丸
縮小社会
縮小社会への歩み
医療・福祉・産業


医療人材連携教育センター
長崎大学・熊本大学・鹿児島大学
Kagoshima Univ.
Kumamoto Univ.
Nagasaki Uni.
Center for Collaborative Medical
Education and Development

三大学（長崎大学、熊本大学、鹿児島大学）連携学習管理システムの構築状況

各大学の学習管理システム（LMS: Learning Management System、以後 LMS）の導入状況を調査したところ、長崎大学が Blackboard Learn[1]、熊本大学が Moodle[2]、鹿児島大学が Manaba[3] とそれぞれ異なるシステムであったため、代表校である長崎大学が利用している Blackboard Learn（長崎大学における愛称 LACS）にライセンスを追加し、ブランド構築機能を用いて、本事業専用のブランドを作成した。また、異なるシステムを用いることになる熊本大学、鹿児島大学の学生・教職員の利便性を向上するため、各大学の認証システムと連携できるようなカスタマイズを行い、各大学のアカウント（ユーザ ID、パスワード）を用いてシステムを利用できるよう構築を行った。

図 1　サインイン画面

図 2　認証システム画面（長崎大学）

図 1 は三大学連携 LMS のサインイン画面、図 2 は認証システム（長崎大学）の画面である。図 1 のサイン画面には、各大学用のサインインボタンが用意され、ボタンをクリックすると図 2 のような認証システムの画面に遷移する。図 2 でそれぞれの大学のアカウント情報を入力し認証すれば、サインイン処理が実施され、LMS が利用可能となる。このような認証連携を行うことによって、熊本大学、鹿児島大学の学生・教職員は、長崎大学の LMS を利用する際に新たなアカウント情報を覚える必要がない。また、LMS を運用する長崎大学としても、新たなアカウントの発行や、紛失時のパスワード再発行といった煩雑な業務を減らすことができる。

コンテンツ面においては、長崎大学で開発したビデオ配信管理システムを用いて、オンデマンドビデオコンテンツや、VR ビデオコンテンツの視聴環境を整備していく計画としている。ビデオ配信管理システムは、LMS とシームレスに連携しており、また、Microsoft 社のクラウドサービス Azure Media Services（AMS）と連携することで高度な機能を実装しており、1 秒単位での視聴履歴の管理や多言語での字幕機能を利用できるようになっている。

---

1 https://blackboard.com/
2 https://moodle.org/
3 https://manaba.jp/

6 今年度の進捗

1. ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に係る委員会の開催

事業推進委員会（長崎大学）
令和４年10月17日（月）
令和４年11月29日（火）
令和５年１月16日（月）
令和５年２月６日（月）
令和５年３月６日（月）
事業推進委員会（熊本大学）
令和４年11月14日（月）
令和４年12月19日（月）
令和５年１月18日（水）

事業推進委員会（鹿児島大学）
令和４年12月８日（木）
令和５年３月８日（水）
連携教育合同委員会
令和４年10月25日（火）
令和４年11月４日（金）
令和４年12月７日（水）
令和５年１月17日（火）
令和５年２月７日（火）
令和５年３月６日（月）

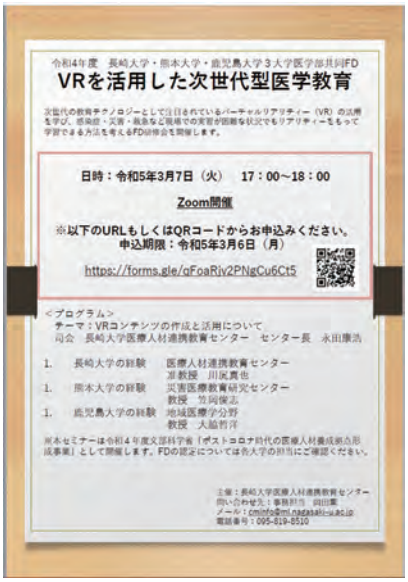
事業評価・管理委員会
令和５年３月13日（月）
外部評価委員会
令和５年３月28日（火）

2. ３大学キックオフシンポジウム（令和５年２月14日開催）

時間	プログラム
12：00～12：45	長崎大学事務局／パネリスト／参加者 Zoom へ入室
12：45～13：30	ポストコロナ事業のビデオ視聴
13：00～13：05	開会の挨拶／注意事項説明（長崎大学 川尻真也先生）
13：05～13：30	長崎大学医科部長 池松和哉先生より挨拶 熊本大学医学部長 山縣和也先生より挨拶 鹿児島大学医学部長 橋口照人先生より挨拶 文部科学省高等教育局医学教育課 課長 伊藤史恵様より挨拶
13：30～13：35	事業説明（鹿児島大学 大脇哲洋先生）
13：35～13：45	事業全体像について（長崎大学 永田康浩先生）
13：45～14：00	長崎大学の取り組み（長崎大学 川尻真也先生）
14：00～14：15	熊本大学の取り組み（熊本大学 永芳友先生）
14：15～14：30	鹿児島大学の取り組み（鹿児島大学 大脇哲洋先生）
14：30～14：50	質疑応答
14：50～14：55	総評（長崎大学病院総合診療科 前田隆浩先生）
14：55～15：00	閉会の挨拶（熊本大学 尾池雄一先生）

■シンポジウムの様子

3. 3大学医学部共同FD（令和5年3月7日開催）


令和4年度　長崎大学・熊本大学・鹿児島大学3大学医学部共同FD

VRを活用した次世代型医学教育

次世代の教育テクノロジーとして注目されているバーチャルリアリティー（VR）の活用を学び、感染症・災害・救急など現場での実習が困難な状況でもリアリティーをもって学びできる方法を考えるFD研修会を開催します。

日時：令和5年3月7日（火）　17：00～18：00

Zoom開催

※以下のURLもしくはQRコードからお申込みください。
申込期限：令和5年3月6日（月）

https://forms.gle/qFoaRiv2PNgCu6Ct5

＜プログラム＞
テーマ：VRコンテンツの作成と活用について
司会　長崎大学医療人材連携教育センター　センター長　永田康浩

1.　長崎大学の経験　医療人材連携教育センター　准教授　川尻真也
1.　熊本大学の経験　災害医療教育研究センター　教授　笠岡俊志
1.　鹿児島大学の経験　地域医療学分野　教授　大脇哲洋

※本セミナーは令和4年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」として開催します。FDの認定については各大学の担当にご確認ください。

主催：長崎大学医療人材連携教育センター
問い合わせ先：事務担当　岡田葉
メール：cminfo@ml.nagasaki-u.ac.jp
電話番号：095-819-8510

時間	プログラム
16：30～17：00	長崎大学事務局／講師／参加者 Zoom へ入室
17：00～17：10	長崎大学医療人材連携教育センター 永田康浩教授より挨拶
17：10～17：25	長崎大学の経験 長崎大学医療人材連携教育センター 川尻真也准教授
17：25～17：45	熊本大学の経験 熊本大学病院 災害医療教育研究センター 笠岡俊志教授
17：45～18：00	鹿児島大学の経験 鹿児島大学 地域医療学分野 大脇哲洋教授

7 その他

1. 文部科学省補助事業 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

https://plaza.umin.ac.jp/postcorona-GP/?fbclid=IwAR0mATbv_k8ZnkYtccc8ZoGGv3eH79OBiW3rBZzQ3d4GU6cbnz88-w3fcOc

2. 長崎大学・熊本大学・鹿児島大学3大学医学部連携事業 次世代教育を創る連携教育拠点構築プロジェクト

https://www.iryojinzai.org/
2023年３月下旬公開予定

3. 長崎大学医学部

https://www.med.nagasaki-u.ac.jp/

4. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学分野

https://www.med.nagasaki-u.ac.jp/cm/index.html

5. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 離島・へき地医療学講座離島医療研究所

http://ritouken.com

6. ながさき地域医療人材支援センター

https://ncmsc.jp

7. 長崎大学ICT基盤センター

https://www.cc.nagasaki-u.ac.jp

8. 熊本大学医学部

http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/

9. 鹿児島大学医学部

https://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/

10. 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター

https://www3.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ecdr/index.html

11. 3大学による事業紹介動画

https://youtu.be/utEwt_GYIdc

編集後記

令和４年度ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業『次世代型教育で創る連携教育拠点構築プロジェクト～地域とくらしを支える医療人の育成～』の報告書を発刊することできました。まだ事業の初年度であり、はっきり形になった成果はありませんが、事業の概要と目指すべきものを中心にまとめさせていただきました。すでに始まったプログラムもありますが、今回は掲載しておりません。次年度以降に取り上げていきたいと思います。

末筆となりますが、本事業に関わる皆様の今後の発展を祈念して、あとがきとさせていただきます。

2023 年 3 月

長崎大学医学部医療人材連携教育センター
川尻　真也

ポストコロナ時代の
医療人材養成拠点形成事業 報告書

発 行 元	長崎大学医学部医療人材連携教育センター 〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号 ［TEL］095-819-8510
発 行 日	2023年3月
印 刷	（株）インテックス